

第 1 節 大 気 汚 染

1 環境基準等

(1) 環境基準値

二 酸 化 硫 黄	日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。
一 酸 化 炭 素	日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 20ppm 以下であること。
浮 遊 粒 子 状 物 質	日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。
光化学オキシダント	1 時間値が 0.06ppm 以下であること。
二 酸 化 窒 素	日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

(2) 環境基準による大気汚染の評価

1 短期的評価

二酸化硫黄等の大気汚染の状態を環境基準に照らして短期的に評価する場合は、連続して又は随時に行った測定結果により、測定を行った日又は時間についてその評価を行う。

この場合、地域の汚染の実情、濃度レベルの時間的変動等に照らして、異常と思われる測定値が得られた際においては、測定器の維持管理状況、気象条件、発生源の状況等について慎重に検討を加え、当該測定値が測定器に起因する場合等地域大気汚染の状況を正しく反映していないと認められる場合は当然評価対象としない。

なお、1 日平均値の評価に当たっては、1 時間値の欠測（上記の評価対象としない測定値を含む。）が 1 日（24 時間）のうち 4 時間を超える場合には評価対象としない。

2 長期的評価

本環境基準による評価は、当該地域の大気汚染に対する施策の効果等を的確に判断するうえで、年間にわたる測定結果を長期的に観察したうえで評価を行うことが必要である。しかしながら、現在の測定体制においては測定精度に限界があること、測定時間、日における特殊事情が直接反映されること等から、次の方法により長期的評価を実施する。日平均値である測定値（1 の評価対象としない測定値は除く。）につき、測定値の高い方から 2% の範囲内にあるもの（365 日分の測定値がある場合は、7 日分の測定値）を除外して評価を行う。ただし、1 日平均値につき環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合には、このような取り扱いは行なわない。

3 98 パーセント値評価

二酸化窒素の環境基準による大気汚染の評価については、測定局ごとに行うものとし、年間における二酸化窒素の 1 日平均値のうち、低い方から 98% に相当するもの（以下「1 日平均値の年間 98% 値」という。）が 0.06ppm 以下の場合は環境基準が達成され、0.06ppm を超える場合は達成されていないものと評価する。

なお、1 時間値の欠測が 4 時間を超える測定日の 1 日平均値は用いない。また、年間における測定値が 6,000 時間に満たない測定局については評価の対象としない。

(3) 炭化水素に係る指針

光化学オキシダント生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針

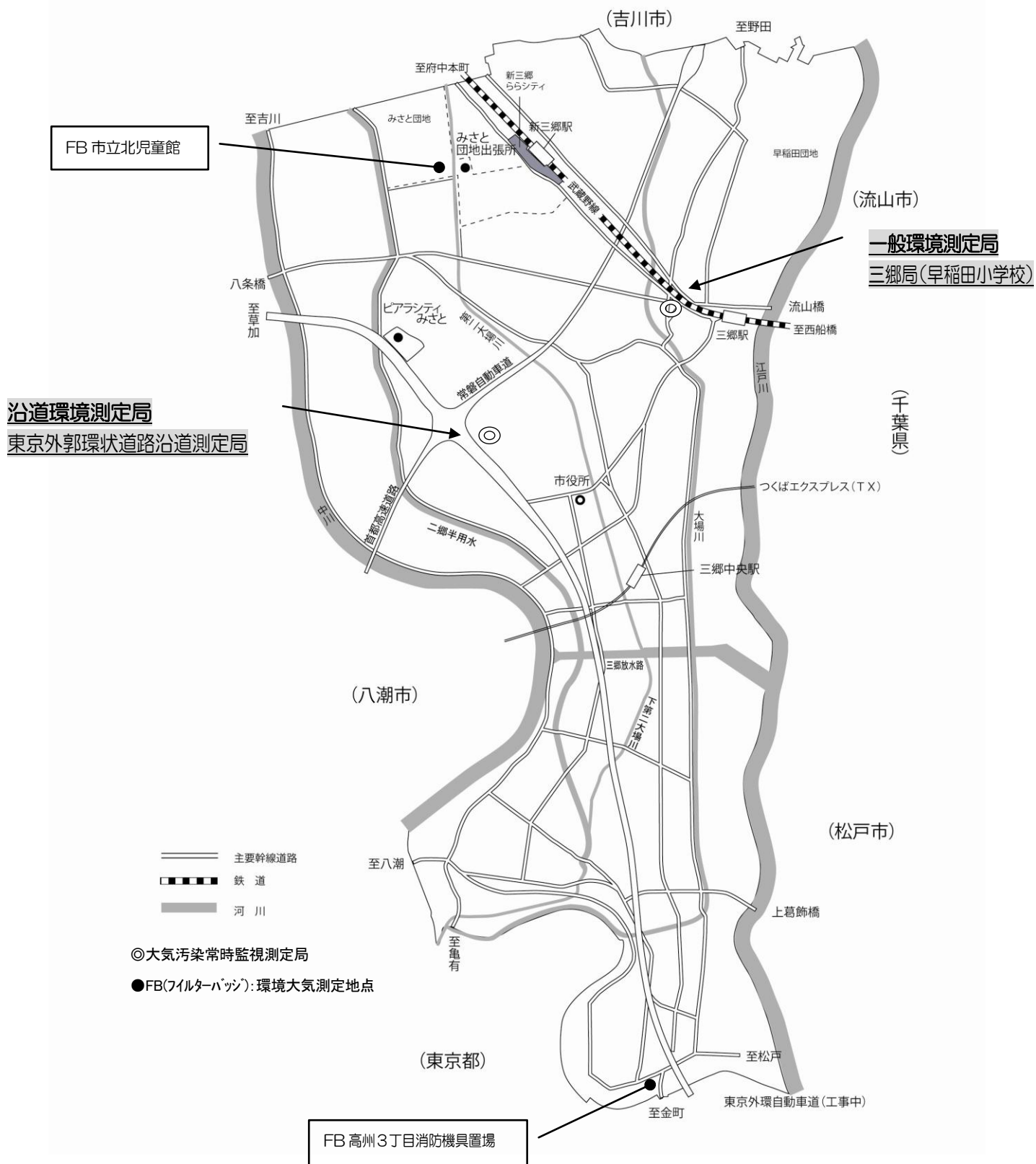
物 質	非メタン炭化水素
指 針	光化学オキシダントの日最高1時間値0.06ppm に対応する午前6時から午前9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は、0.20ppmC から0.31ppmC の範囲にあること。

(4) 大気汚染常時監視測定局

測定局の種類	一般環境測定局	沿道環境測定局
測 定 局 名	三 郷 局	東京外郭環状道路沿道測定局
所 在 地	三郷 3-2-1 (早稲田小学校)	番匠免 3-96-3 (埼玉県中川下水処理センター)
用 途 地 域	住 居 地 域	その他 (市街化調整区域)
測 定 項 目	二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、光化学オキシダント、風向・風速	浮遊粒子状物質、窒素酸化物、一酸化炭素、風向・風速
主 要 道 路	・主要地方道草加一流山線 ・主要地方道三郷一松伏線	・国道 298 号線 ・東京外郭環状道路
設 置 主 体	埼 玉 県	三 郷 市



(5) 大気汚染測定地点図



2 一般環境測定局（常時監視）測定結果

(1) 二酸化硫黄^{いおう}〔SO₂〕の測定結果と評価

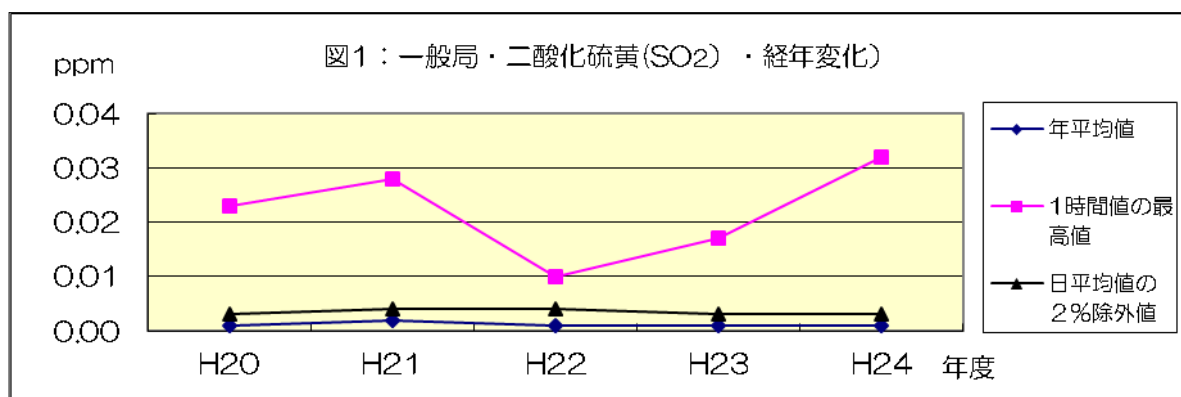
平成24年度の二酸化硫黄の年間値（表1 参照）は、年平均値、1時間値の最高値及び日平均値の2%除外値が、それぞれ0.001ppm、0.032ppm、0.003ppmである。昨年度に比べると、年平均と日平均値の2%除外値は増減なし、1時間値の最高値は0.015 ppm増加した。

過去5ケ年の経年変化（図1を参照）をみると、年平均値では0.001～0.002ppm、1時間値の最高値では0.010～0.032ppm、日平均値の2%除外値では0.003～0.004ppmで推移しており、横ばい傾向にある。

※ 環境基準の達成状況については、長期的評価、短期的評価ともに過去5年間に渡り達成の状態が続いている。

年間値及び経年変化 （表1）

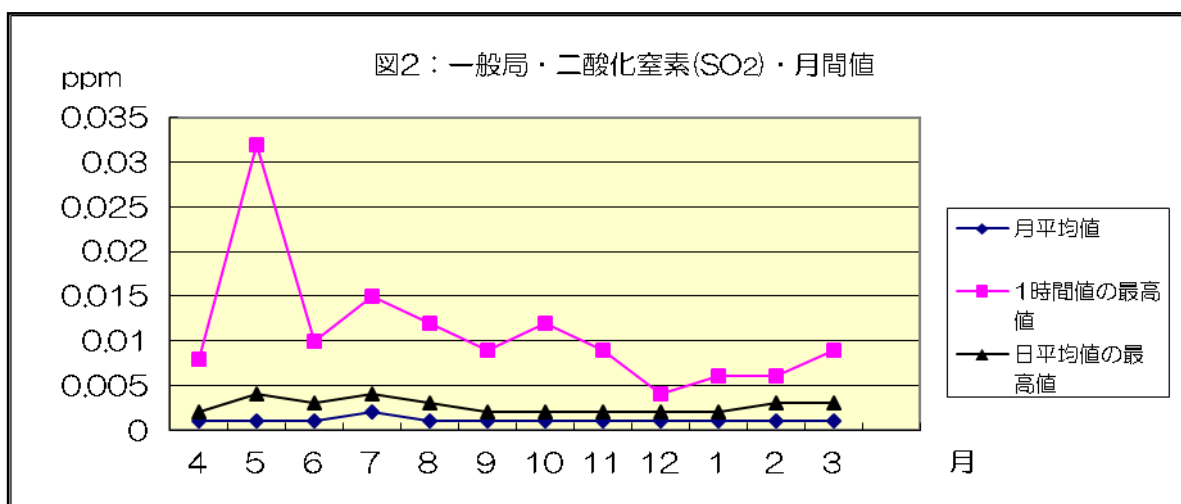
項 目	単 位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	354	365	365
測定時間	時間	8,474	8,674	8,661
年平均値	ppm	0.001	0.001	0.001
1時間値が0.1ppmを超えた時間	時間	0	0	0
日平均値が0.04ppmを超えた日数	日	0	0	0
1時間値の最高値	ppm	0.010	0.017	0.032
日平均値の2%除外値	ppm	0.004	0.003	0.003
日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	有・無	無	無	無
環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数	日	0	0	0
環境基準〔短期的評価〕	○・×	○	○	○
環境基準〔長期的評価〕	○・×	○	○	○



平成24年度の月間値(表2及び図2参照)については、月平均値が0.001~0.002ppm、1時間値の最高値が0.004~0.032ppm、日平均値の最高値が0.002~0.004ppmで推移している。

平成24年度 月間値 (表2)

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
測定時間(時間)	711	737	712	735	736	709	737	713	736	735	664	736
月平均値(ppm)	0.001	0.001	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
1時間値が0.1ppmを超えた時間(時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.04ppmを超えた日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1時間値の最高値(ppm)	0.008	0.032	0.010	0.015	0.012	0.009	0.012	0.009	0.004	0.006	0.006	0.009
日平均値の最高値(ppm)	0.002	0.004	0.003	0.004	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.003



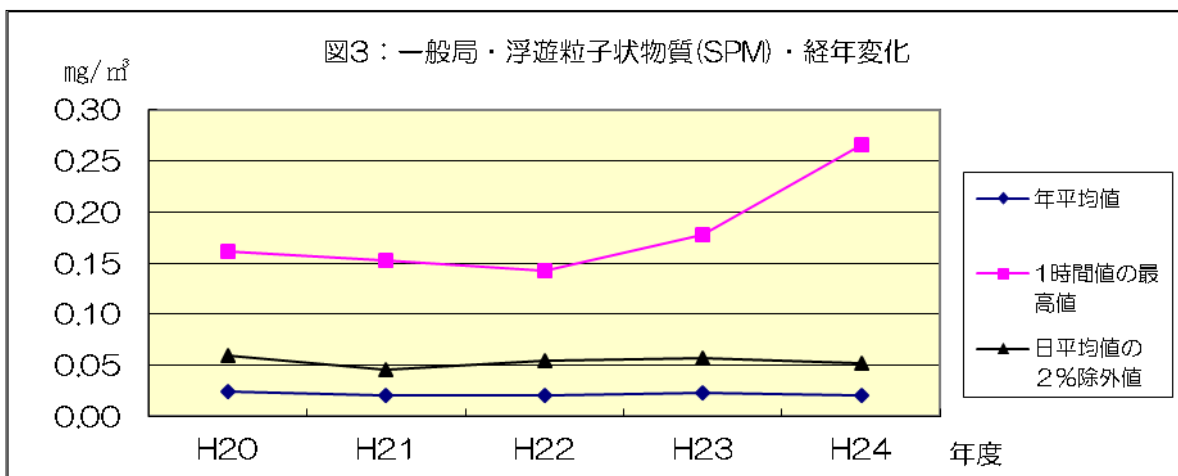
(2) 浮遊粒子状物質〔SPM〕の測定結果と評価

平成24年度の浮遊粒子状物質（表3参照）については、年平均値が $0.021\text{mg}/\text{m}^3$ 、1時間値の最高値が $0.266\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の2%除外値が $0.052\text{mg}/\text{m}^3$ であり、前年度に比べると、1時間値の最高値は $0.088\text{mg}/\text{m}^3$ の増加、日平均値の2%除外値は $0.005\text{mg}/\text{m}^3$ の減少となった。

過去5ケ年における経年変化（図3参照）をみると、年平均値では $0.021\sim 0.023\text{mg}/\text{m}^3$ 、1時間値の最高値では $0.143\sim 0.266\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の2%除外値では、 $0.046\sim 0.060\text{mg}/\text{m}^3$ の間にあり、平成24年度の数値は、平成23年度と比較し増加傾向にある。

年間値及び経年変化（表3）

項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	363	364	363
測定時間	時間	8,675	8,711	8,681
年平均値	mg/m^3	0.021	0.023	0.021
1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間	時間	0	0	1
日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数	日	0	0	1
1時間値の最高値	mg/m^3	0.143	0.178	0.266
日平均値の2%除外値	mg/m^3	0.054	0.057	0.052
日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続したことの有無	有・無	無	無	無
環境基準の長期的評価による日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数	日	0	0	0
環境基準〔短期的評価〕	○・×	○	○	×
環境基準〔長期的評価〕	○・×	○	○	○

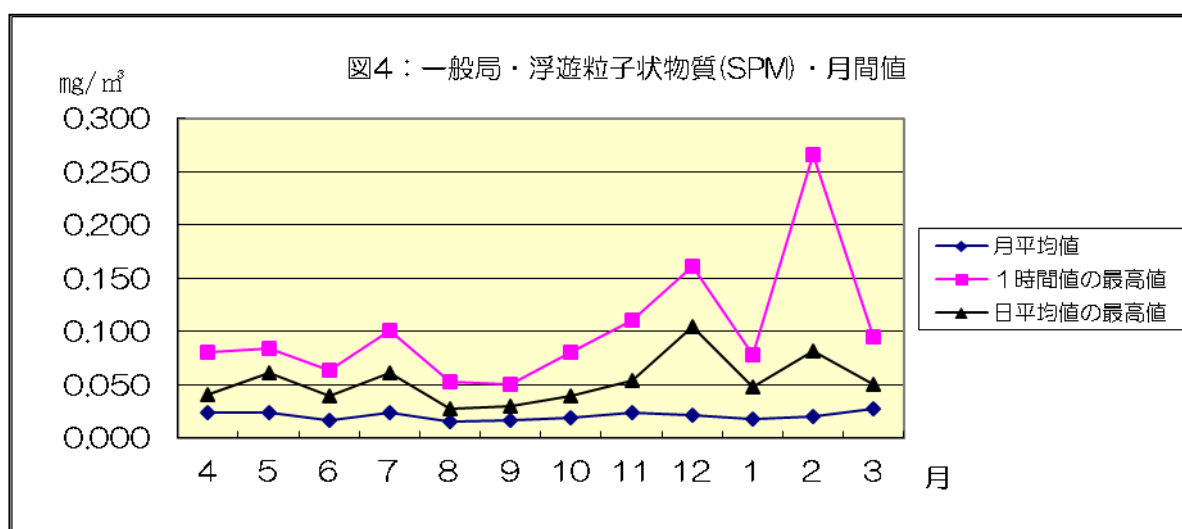


平成24年度の浮遊粒子状物質の月間値（表4及び図4参照）については、月平均値が0.016～0.028mg/m³、1時間値の最高値が0.051～0.266mg/m³、日平均値の最高値が0.028～0.105mg/m³で推移している。

浮遊粒子状物質の発生源には、工場、事業所等のボイラーや自動車の排ガスがあるが、最近では、自動車の排ガスによるものが主流を占めているといわれている。

平成24年度 月間値 （表4）

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 (日)	30	31	30	31	31	30	29	30	31	31	28	31
測定時間 (時間)	717	741	716	740	741	715	710	717	741	741	668	734
月平均値 (mg/m ³)	0.024	0.024	0.017	0.024	0.016	0.017	0.019	0.024	0.022	0.018	0.021	0.028
1時間値が0.2mg/m ³ を 超えた時間(時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
日平均値が0.1mg/m ³ を 超えた日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
1時間値の最高値 (mg/m ³)	0.081	0.084	0.064	0.101	0.053	0.051	0.081	0.111	0.162	0.078	0.266	0.095
日平均値の最高値 (mg/m ³)	0.041	0.062	0.040	0.062	0.028	0.030	0.040	0.054	0.105	0.048	0.082	0.051



(3) 光化学オキシダント [Ox] の測定結果と評価

平成24年度光化学オキシダントの年間値（表5参照）については、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数が212時間であり、前年度に比べると23時間の増加であった。

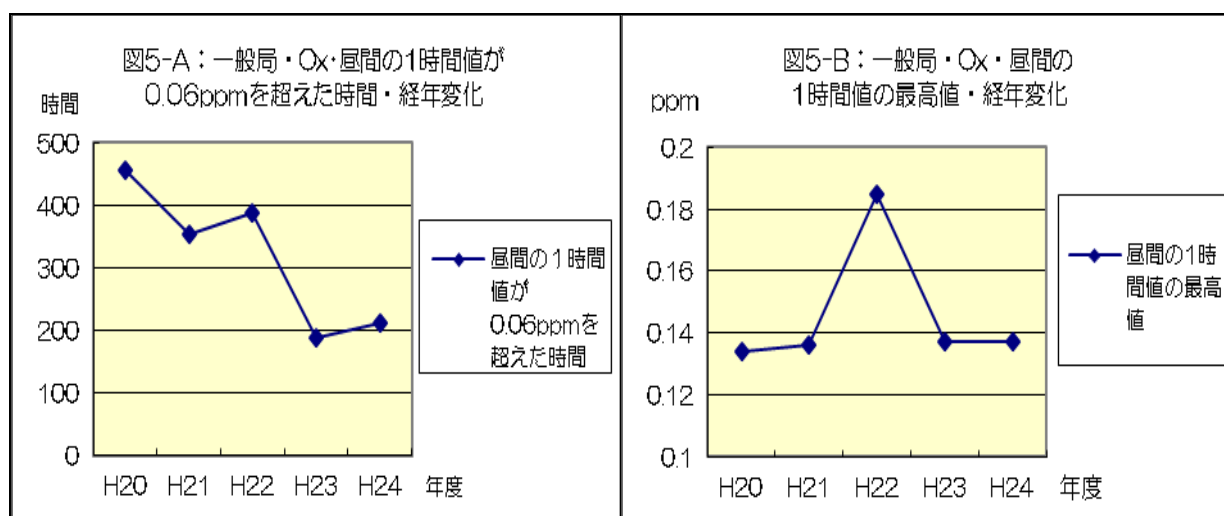
過去5ケ年の経年変化（図5-A・B参照）では、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間が、189～456時間、昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数では1～9日である。

光化学オキシダントの発生は、その年の気温等の気象条件に左右されるため光化学スモッグ注意報の発令回数も年度によってバラツキが生じている。

なお、平成24年度の光化学スモッグ注意報の発令回数は、予報が3日、注意報4日であり、前年度と比べると発令回数は減少している。

年間値及び経年変化（表5）

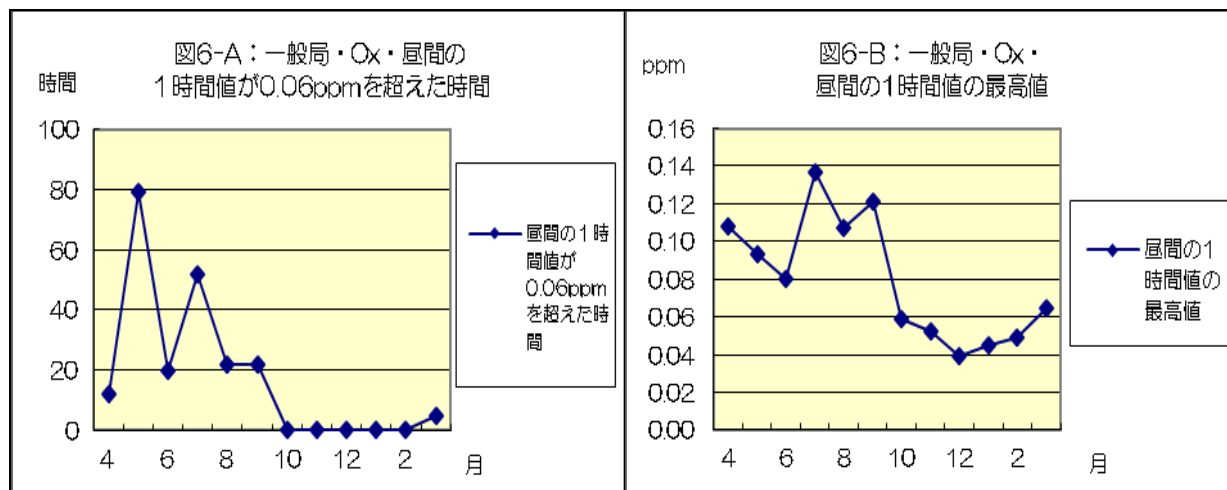
項 目	単位	22年度	23年度	24年度
昼間の測定日数	日	365	346	365
昼間の測定時間	時間	5,386	5,093	5,412
昼間の1時間値の年平均値	ppm	0.029	0.025	0.027
昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数	日	78	48	52
昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間	時間	387	189	212
昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数	日	9	1	2
昼間の1時間値が0.12ppm以上の時間	時間	17	3	4
昼間の1時間値の最高値	ppm	0.185	0.137	0.137
昼間の最高1時間値の年平均値	ppm	0.048	0.042	0.043
環境基準	○・×	×	×	×
光化学スモッグ予報発令回数	日/回	17	9	3
光化学スモッグ注意報発令回数	日/回	16	6	4
光化学スモッグ警報発令回数	日/回	0	0	0
光化学スモッグ注意報発令延べ時間数	時間	—	—	—
光化学スモッグ健康被害届出人数	人	0	0	0



光化学オキシダントの月間値（表 6 及び図 6-A・B 参照）をみると、5 月から 9 月ごろが高い数値を示している。これは、光化学オキシダントの発生が前述したように、大気安定（特に夏期、日差しが強く、風の弱い日（4m/s）、気温が 24℃以上）している時期に光化学オキシダントが高くなる傾向にあるためである。

平成 24 年度 月間値 （表 6）

項 目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼間の測定日数 （日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
昼間の測定時間 （時間）	447	462	431	462	462	446	455	446	462	461	416	462
昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数（日）	3	16	6	10	8	7	0	0	0	0	0	2
昼間の 1 時間値が 0.06ppm を 超えた時間（時間）	12	79	20	52	22	22	0	0	0	0	0	5
昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数（日）	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の時間（時間）	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0
昼間の 1 時間値の 最高値（ppm）	0.108	0.093	0.080	0.137	0.107	0.121	0.059	0.052	0.039	0.045	0.049	0.065
昼間の日最高 1 時間値の 月平均値（ppm）	0.048	0.062	0.052	0.054	0.046	0.048	0.040	0.026	0.025	0.034	0.034	0.047
昼間の 1 時間値の 月平均値（ppm）	0.035	0.043	0.035	0.029	0.024	0.027	0.025	0.015	0.013	0.020	0.022	0.033



(4) 窒素酸化物〔NO_x〕等の測定結果と評価

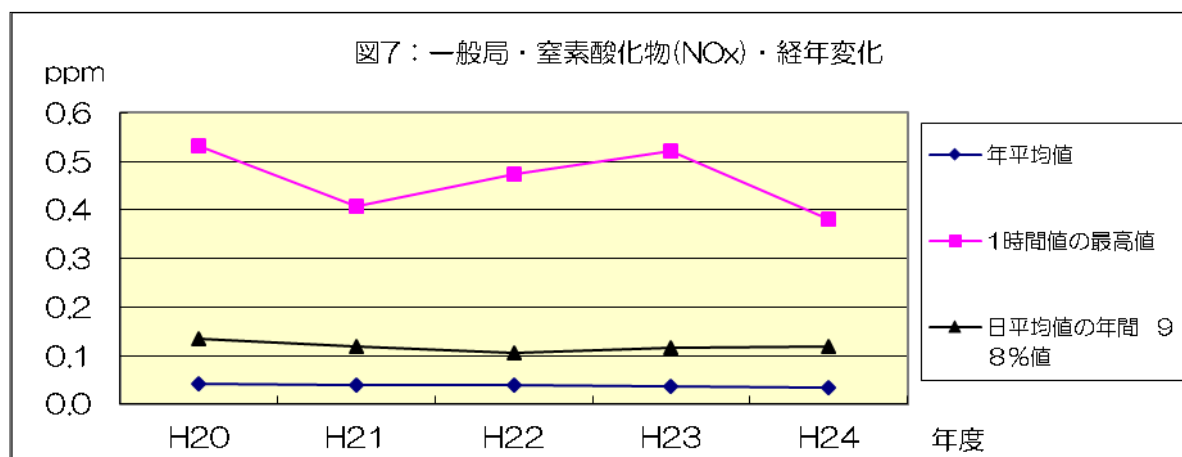
① 窒素酸化物〔NO_x〕

平成24年度の窒素酸化物の年間値（表7参照）については、年平均値が0.034ppm、1時間値の最高値が0.381ppmであり、前年度に比べると、年平均値は0.003 ppm、1時間値の最高値は0.142ppm、ともに減少している。

過去5年間における経年変化（図7参照）をみると、年平均値が0.038～0.043ppm、1時間値の最高値が0.409～0.532ppmで推移し、横ばい傾向にある。

年間値及び経年変化（表7）

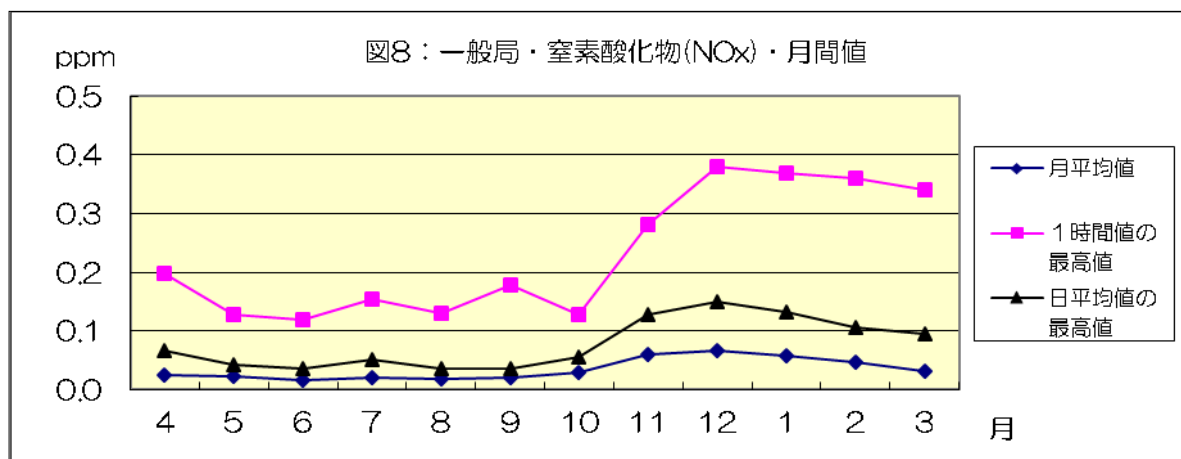
項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	358	365	365
測定時間	時間	8,558	8,663	8,677
年平均値	ppm	0.038	0.037	0.034
1時間値の最高値	ppm	0.473	0.523	0.381
NO ₂ /（NO+ NO ₂ ）の平均値	%	58.5	56.5	58.0
日平均値の年間98%値	ppm	0.106	0.117	0.119



次に、月間値（表8及び図8参照）をみると、月平均値が0.015～0.067ppm、1時間値の最高値が0.120～0.381ppm、日平均値の最高値が0.035～0.150ppmで推移している。また、冬期に高い数値を示しているのがわかる。

平成24年度 月間値 （表8）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 (日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
測定時間 (時間)	713	737	711	736	737	708	737	713	739	737	668	741
月平均値 (ppm)	0.024	0.022	0.015	0.021	0.018	0.021	0.029	0.060	0.067	0.057	0.047	0.032
1時間値の最高値 (ppm)	0.197	0.128	0.120	0.155	0.130	0.178	0.128	0.281	0.381	0.369	0.361	0.314
日平均値の最高値 (ppm)	0.066	0.042	0.035	0.052	0.036	0.036	0.056	0.127	0.150	0.132	0.107	0.095
月平均値：NO ₂ ／ NO+NO ₂ (%)	71.9	79.2	81.5	73.9	65.8	68.3	65.4	46.2	42.9	49.3	56.8	65.5



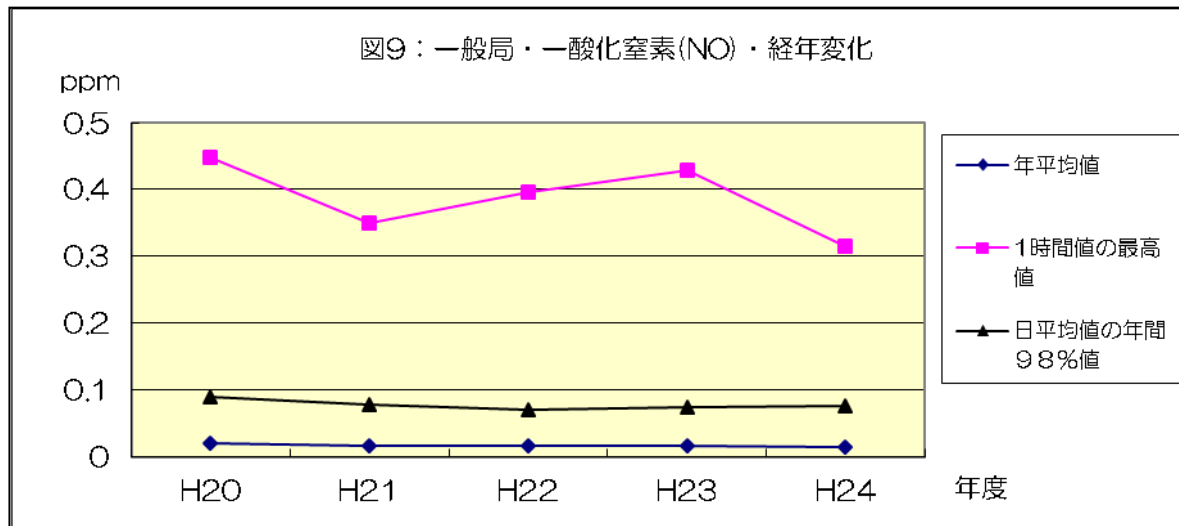
② 一酸化窒素〔NO〕

平成24年度の年間値（表9参照）については、年平均値が0.014ppm、1時間値の最高値が0.316ppmである。前年度と比較してみると、年平均値は0.002ppm、1時間値の最高値は0.112ppm、ともに減少している。

過去5ケ年間の経年変化（図9参照）をみると、年平均値が0.014～0.020ppm、1時間値の最高値が0.316～0.449ppmで推移しており、横ばい傾向にある。

年間値及び経年変化（表9）

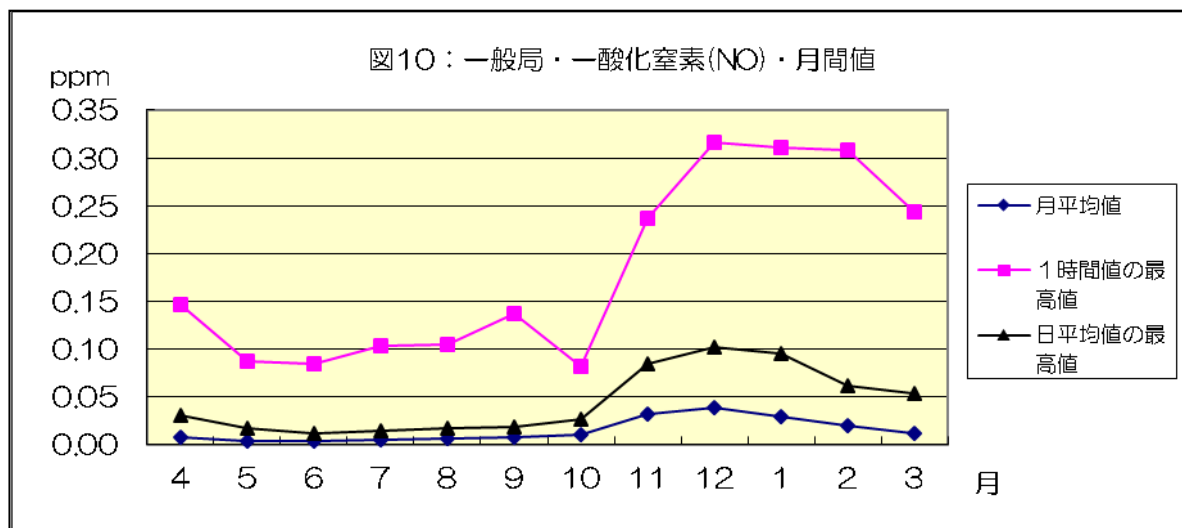
項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	358	365	365
測定時間	時 間	8,558	8,663	8,677
年平均値	ppm	0.016	0.016	0.014
1時間値の最高値	ppm	0.396	0.428	0.316
日平均値の年間98%値	ppm	0.071	0.074	0.076



また、月間値（表 10 及び図 10 参照）をみると、月平均値が 0.003～0.038ppm、1 時間値の最高値が 0.084～0.316ppm、日平均値の最高値が 0.011～0.102ppm で推移している。
冬期に高い数値を示していることがわかる。

平成24年度 月間値 （表 10）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数（日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
測定時間（時間）	713	737	711	736	737	708	737	713	739	737	668	741
月平均値（ppm）	0.007	0.004	0.003	0.005	0.006	0.007	0.010	0.032	0.038	0.029	0.020	0.011
1時間値の最高値（ppm）	0.147	0.087	0.084	0.103	0.105	0.137	0.082	0.237	0.316	0.311	0.308	0.244
日平均値の最高値（ppm）	0.031	0.017	0.011	0.014	0.017	0.018	0.027	0.085	0.102	0.095	0.062	0.054



③ 二酸化窒素〔NO₂〕

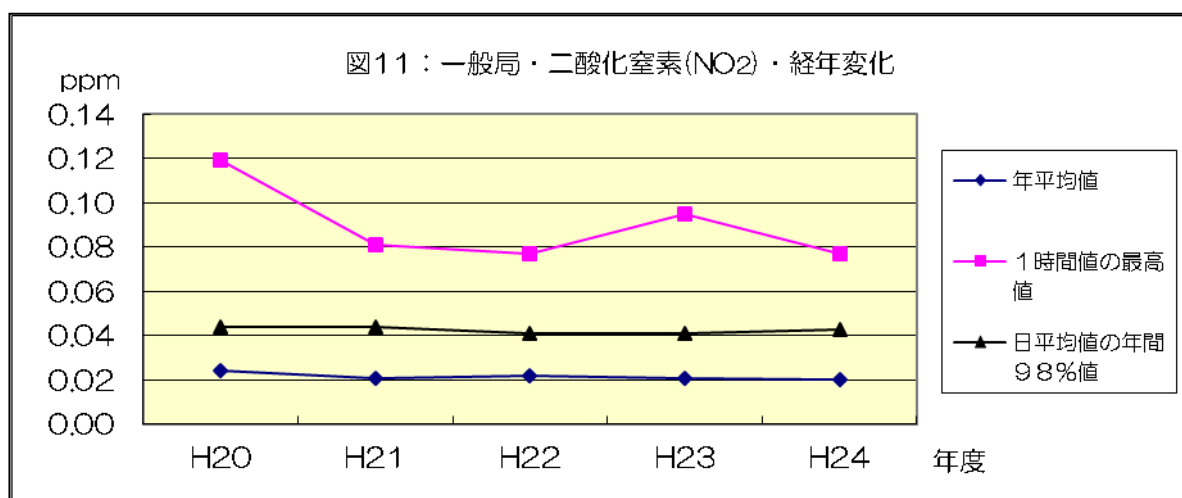
平成24年度の年間値（表11参照）については、年平均値が0.020ppm、1時間値の最高値が0.077ppm、日平均値の年間98%値が0.043ppmである。前年度と比較すると、年平均値は0.001ppm、1時間値の最高値は0.018ppm、ともに減少、日平均値の年間98%値は0.002ppmの増加である。

過去5ヶ年間の経年変化（図11参照）をみると、年平均値が0.020～0.024ppm、1時間値の最高値が0.077～0.119ppm、日平均値の年間98%値が0.041～0.044ppmで推移している。

環境基準の達成状況については、5年連続達成し、大気中濃度は、着実に改善されている。

年間値及び経年変化（表11）

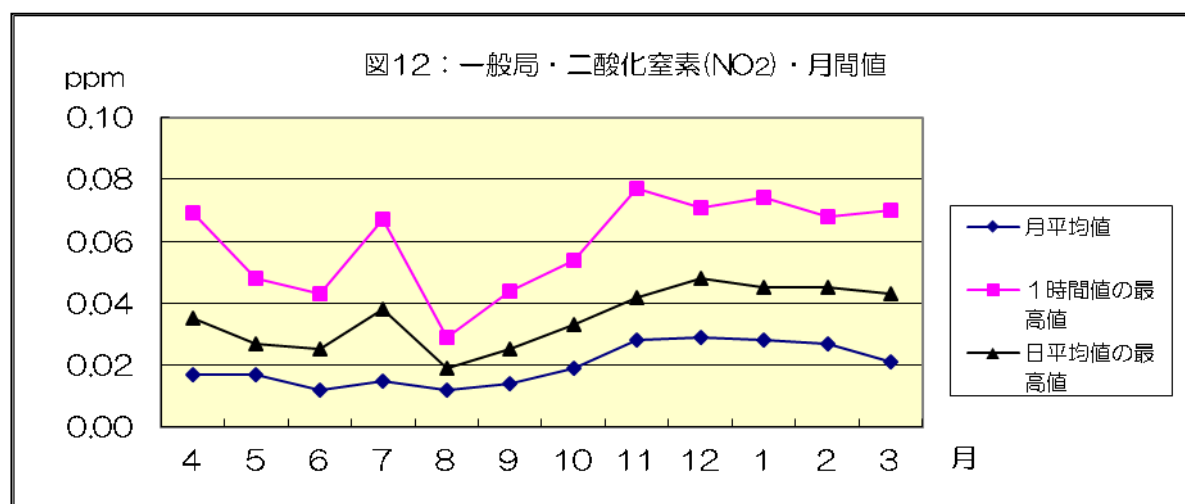
項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	358	365	365
測定時間	時間	8,558	8,663	8,677
年平均値	ppm	0.022	0.021	0.020
1時間値の最高値	ppm	0.077	0.095	0.077
1時間値が0.2ppmを超えた時間数	時間	0	0	0
1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数	時間	0	0	0
日平均値が0.06ppmを超えた日数	日	0	0	0
日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数	日	15	11	16
日平均値の年間98%値	ppm	0.041	0.041	0.043
98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数	日	0	0	0
環境基準	○・×	○	○	○



また、月間値（表 12 及び図 12 参照）をみると、月平均値が 0.012～0.029ppm、1 時間値の最高値が 0.029～0.077ppm、日平均値の最高値が 0.019～0.048ppm で推移している。

平成24年度 月間値 （表 12）

項 目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 （日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
測 定 時 間 （時間）	713	737	711	736	737	708	737	713	739	737	668	741
月 平 均 値 （ppm）	0.017	0.017	0.012	0.015	0.012	0.014	0.019	0.028	0.029	0.028	0.027	0.021
1時間値の最高値 （ppm）	0.069	0.048	0.043	0.067	0.029	0.044	0.054	0.077	0.071	0.074	0.068	0.070
日平均値の最高値 （ppm）	0.035	0.027	0.025	0.038	0.019	0.025	0.033	0.042	0.048	0.045	0.045	0.043
1時間値が0.2ppmを 超えた時間数（時間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1時間値が0.1ppm以上 0.2ppm以下の時間数（時間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.06ppmを 超えた日数（日）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.04ppm以上 0.06ppm以下の日数（日）	0	0	0	0	0	0	0	3	5	3	3	2



3 外環監視測定局（常時監視）

(1) 一酸化炭素〔CO〕の測定結果と評価

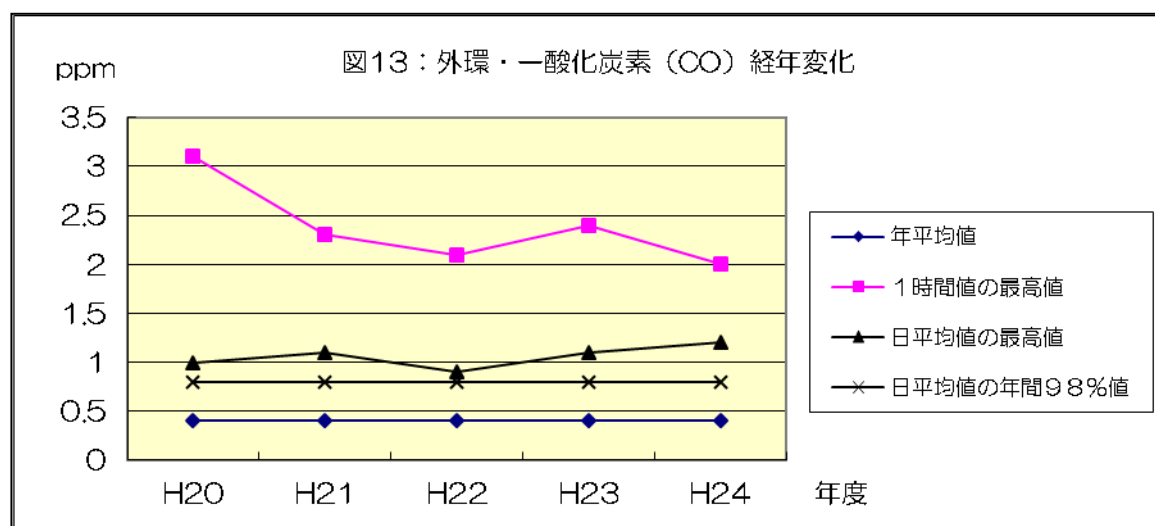
平成24年度の一酸化炭素の年間値（表13参照）については、年平均値が0.4ppm、1時間値の最高値が2.0ppm、日平均値の最高値が1.2ppm、日平均値の年間98%値が0.8ppmである。

前年度に比べると、年平均値変化は増減なし、1時間値の最高値は0.4ppm減少、日平均値の最高値は0.1ppm増加、日平均値の年間98%値で増減なしであった。

過去5ケ年における経年変化（図13参照）をみると、年平均値が0.4ppm、1時間値の最高値が2.0～3.1ppm、日平均値の最高値が0.9～1.2ppm、日平均値の年間98%値が0.8ppmで推移している。

年間値及び経年変化（表13）

項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	364	366	365
測定時間	時間	8,635	8,673	8,641
年平均値	ppm	0.4	0.4	0.4
1時間値の最高値	ppm	2.1	2.4	2.0
日平均値の最高値	ppm	0.9	1.1	1.2
8時間値が20ppmを超えた回数	回	0	0	0
日平均値が10ppmを超えた日数	日	0	0	0
1時間値が30ppm以上の回数	回	0	0	0
日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	有・無	無	無	無
日平均値の年間98%値	ppm	0.8	0.8	0.8
環境基準の長期的評価による日平均値が10ppmを超えた日数	日	0	0	0

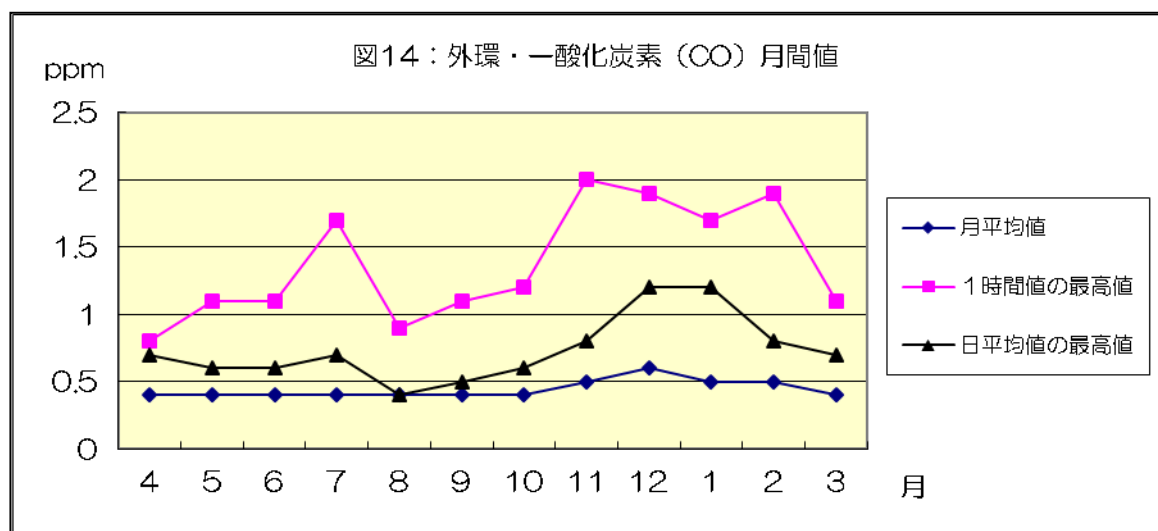


また、月間値（表 14 及び図 14 参照）をみると、月平均値が 0.4～0.6ppm、1 時間値の最高値が 0.8～2.0ppm、日平均値の最高値が 0.4～1.2ppm である。時期的に、冬期に高くなる傾向がみられた。

なお、環境基準の達成状況については、環境基準の長期的評価による日平均値が 10ppm を超えた日数はなく、達成しているといえる。

平成 24 年度 月間値 （表 14）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
測 定 時 間 （ 時 間 ）	711	728	712	735	732	711	733	710	738	735	663	733
月 平 均 値 （ p p m ）	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.6	0.5	0.5	0.4
1 時 間 値 の 最 高 値 （ p p m ）	0.8	1.1	1.1	1.7	0.9	1.1	1.2	2.0	1.9	1.7	1.9	1.1
日 平 均 値 の 最 高 値 （ p p m ）	0.7	0.6	0.6	0.7	0.4	0.5	0.6	0.8	1.2	1.2	0.8	0.7
8時間値が20ppmを超えた回数（回）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が10ppmを超えた日数（日）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1時間値が30ppm以上の回数（回）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無（有・無）	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
環境基準の長期的評価による日平均値が10ppmを超えた日数（日）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



(2) 浮遊粒子状物質〔SPM〕の測定結果と評価

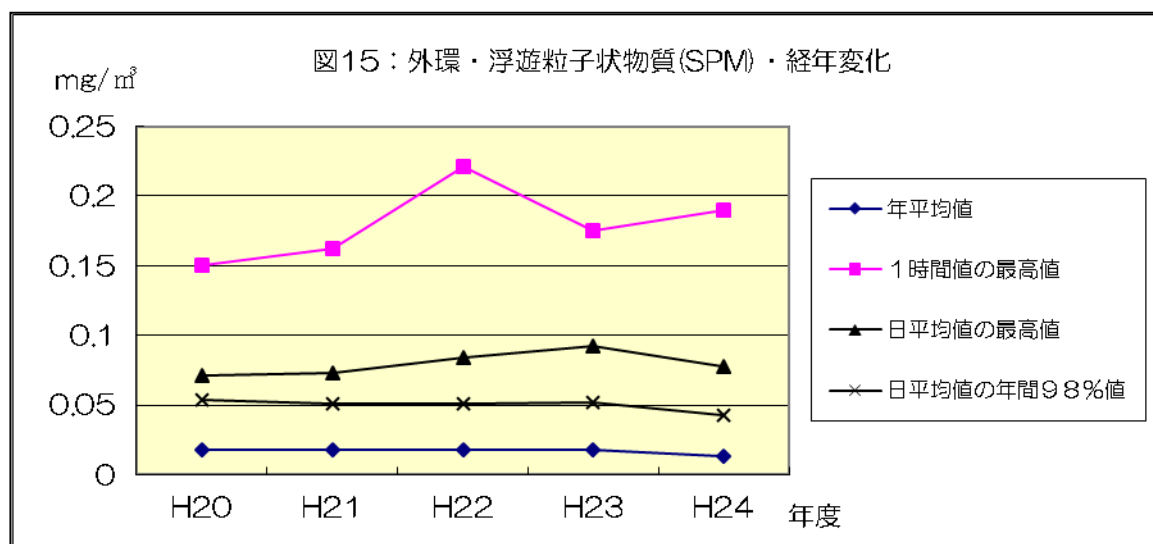
平成24年度浮遊粒子状物質の年間値（表15参照）については、年平均値が $0.013\text{g}/\text{m}^3$ 、1時間値の最高値が $0.190\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の最高値が $0.078\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の年間98％値が $0.043\text{mg}/\text{m}^3$ である。

これらを前年度と比べると、年平均値は $0.005\text{mg}/\text{m}^3$ 減少、1時間値の最高値で $0.015\text{mg}/\text{m}^3$ の増加、日平均値の最高値で $0.014\text{mg}/\text{m}^3$ の減少、日平均値の年間98％値では $0.009\text{mg}/\text{m}^3$ 減少であった。

過去5ケ年における経年変化（図15参照）をみると、年平均値で $0.013\sim 0.018\text{mg}/\text{m}^3$ 、1時間値の最高値で $0.150\sim 0.221\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の最高値で $0.071\sim 0.092\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の年間98％値が $0.043\sim 0.054\text{mg}/\text{m}^3$ で推移している。

年間値及び経年変化（表15）

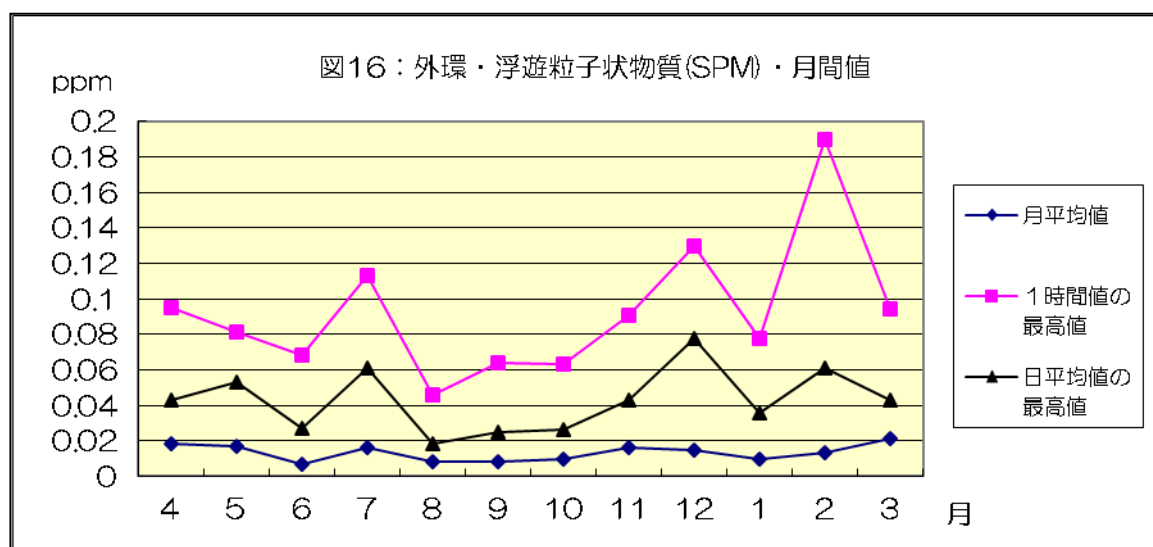
項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	363	366	364
測定時間	時 間	8,680	8,721	8,695
年平均値	mg/m^3	0.018	0.018	0.013
1時間値の最高値	mg/m^3	0.221	0.175	0.190
日平均値の最高値	mg/m^3	0.084	0.092	0.078
1時間値が $0.2\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数	時 間	1	0	0
日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数	日	0	0	0
日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続したことの有無	有・無	無	無	無
日平均値の年間98％値	mg/m^3	0.051	0.052	0.043
環境基準の長期的評価による日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数	日	0	0	0



また、月間値（表 16 及び図 16 参照）をみると、月平均値では $0.007\sim 0.021\text{mg}/\text{m}^3$ 、1 時間値の最高値では $0.046\sim 0.190\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の最高値では $0.018\sim 0.078\text{mg}/\text{m}^3$ で推移している。

平成 24 年度月間値 （表 16）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 (日)	30	30	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
測 定 時 間 (時間)	716	735	715	739	738	716	737	714	739	740	668	738
月 平 均 値 (mg/m^3)	0.018	0.017	0.007	0.016	0.008	0.008	0.010	0.016	0.015	0.010	0.013	0.021
1 時間値の最高値 (mg/m^3)	0.095	0.081	0.068	0.113	0.046	0.064	0.063	0.091	0.130	0.078	0.190	0.094
日平均値の最高値 (mg/m^3)	0.043	0.053	0.027	0.061	0.018	0.025	0.026	0.043	0.078	0.036	0.061	0.043
1時間値が $0.2\text{mg}/\text{m}^3$ を 超えた時間数(時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を 超えた日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が 2日以上続いたことの有無(有・無)	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無



(3) 窒素酸化物〔NO_x〕等の測定結果と評価

① 窒素酸化物〔NO_x〕

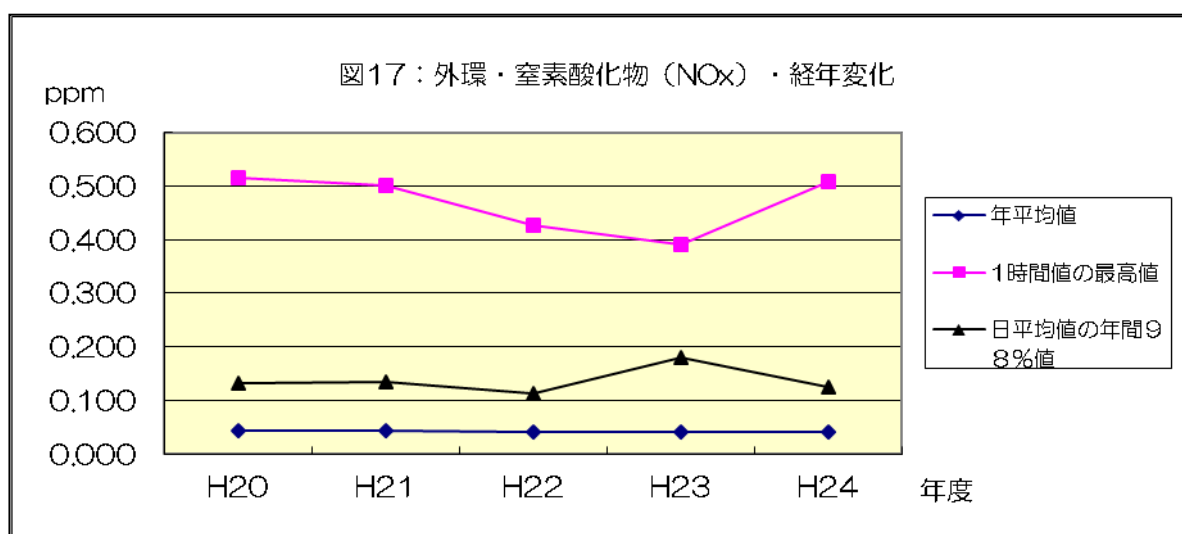
平成24年度の窒素酸化物の年間値（表 17 参照）は、年平均値が 0.040ppm、1 時間値の最高値が 0.507ppm、日平均値の年間 98%値が 0.125ppm である。

前年度に比べると、年平均値は 0.002ppm の減少、1 時間値の最高値で 0.116ppm の増加、日平均値の年間 98%値で 0.054ppm の減少であった。

過去 5 ケ年における経年変化（図 17 参照）をみると、年平均値が 0.040～0.044ppm、1 時間値の最高値が 0.391～0.514ppm、日平均値の年間 98%値が 0.113～0.179ppm で推移している。

年間値及び経年変化 （表 17）

項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	359	364	363
測定時間	時間	8,595	8,636	8,609
年平均値	ppm	0.042	0.042	0.040
1時間値の最高値	ppm	0.426	0.391	0.507
日平均値の年間98%値	ppm	0.113	0.179	0.125
NO ₂ ／（NO+NO ₂ ）の平均値	%	62.2	59.8	61.7

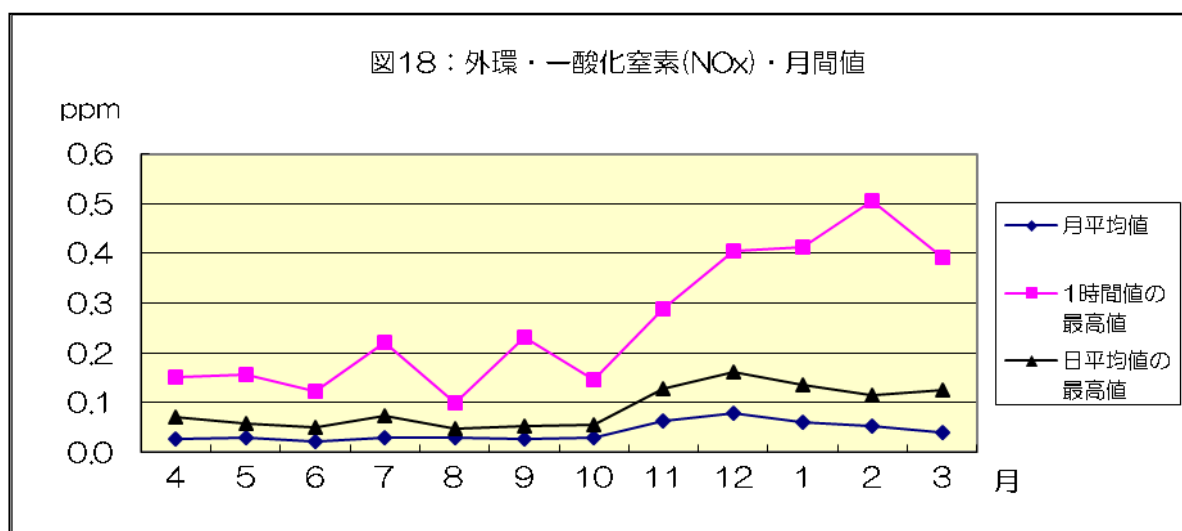


また、月間値（表 18 及び図 18 参照）をみると、月平均値は 0.021～0.077ppm、1 時間値の最高値は 0.100～0.507ppm、日平均値の最高値は 0.048～0.162ppm になっている。

時期的には、大気汚染の特徴である夏期が低く、冬期に高くなる傾向となっている。

平成 24 年度 月間値 （表 18）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 (日)	30	30	30	31	31	30	30	30	31	31	28	31
測 定 時 間 (時間)	708	723	709	732	733	711	726	708	733	733	661	732
月 平 均 値 (ppm)	0.027	0.030	0.021	0.029	0.028	0.026	0.030	0.062	0.077	0.060	0.051	0.039
1 時 間 値 の 最 高 値 (ppm)	0.152	0.155	0.123	0.222	0.100	0.232	0.145	0.288	0.404	0.413	0.507	0.392
日平均値の最高値 (ppm)	0.070	0.057	0.049	0.074	0.048	0.051	0.056	0.127	0.162	0.135	0.115	0.124
月平均値：NO ₂ / [NO+NO ₂] (%)	77.8	82.4	81.4	72.6	63.0	70.2	72.4	49.7	44.4	53.0	61.5	68.8



② 一酸化窒素〔NO〕

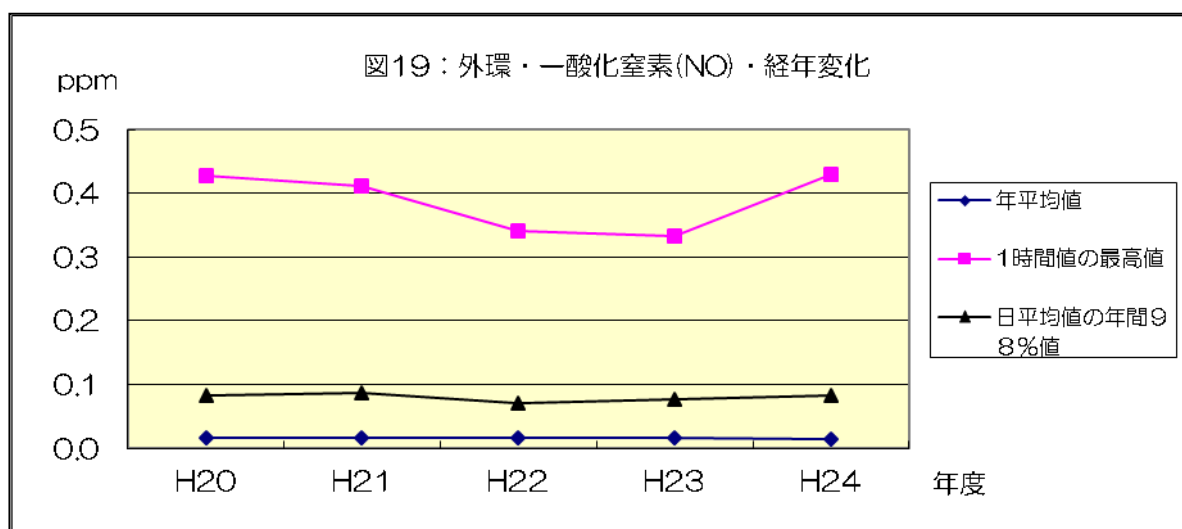
平成24年度の一酸化窒素の年間値（表 19 参照）については、年平均値が 0.015ppm、1 時間値の最高値が 0.429ppm、日平均値の年間 98%値が 0.082ppm である。

これらを前年度と比べると、年平均値は 0.002 ppm 減少、1 時間値の最高値では 0.096ppm の増加、日平均値の 98%値で 0.006ppm の増加となった。

過去 5 ケ年における経年変化（図 19 参照）をみると、年平均値で 0.015～0.017ppm とほぼ横ばい、1 時間値の最高値で 0.333～0.429ppm、日平均値の 98%値では 0.070～0.186ppm で推移し、横ばい傾向にあるといえる。

年間値及び経年変化 （表 19）

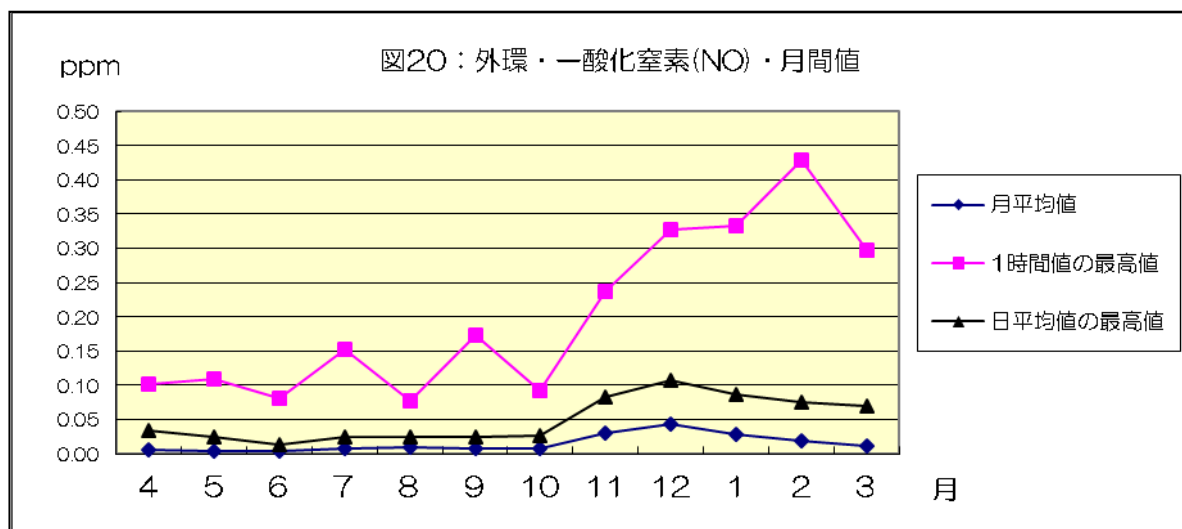
項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	359	364	363
測定時間	時 間	8,595	8,636	8,609
年平均値	ppm	0.016	0.017	0.015
1時間値の最高値	ppm	0.342	0.333	0.429
日平均値の年間98%値	ppm	0.070	0.076	0.082



また、月間値（表 20 及び図 20 参照）をみると、月平均値では 0.004～0.043ppm、1 時間値の最高値では 0.081～0.429ppm、日平均値の最高値では 0.013～0.107ppm である。一酸化窒素も大気汚染の特徴である夏期が低く、冬期に高くなる傾向になっている。

平成 24 年度 月間値 （表 20）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 (日)	30	30	30	31	31	30	30	30	31	31	28	31
測定時間 (時間)	708	723	709	732	733	711	726	708	733	733	661	732
月平均値 (ppm)	0.006	0.005	0.004	0.008	0.010	0.008	0.008	0.031	0.043	0.028	0.020	0.012
1時間値の最高値 (ppm)	0.101	0.109	0.081	0.152	0.077	0.174	0.092	0.238	0.327	0.333	0.429	0.298
日平均値の最高値 (ppm)	0.034	0.025	0.013	0.024	0.024	0.024	0.026	0.083	0.107	0.087	0.075	0.069



③ 二酸化窒素〔NO₂〕

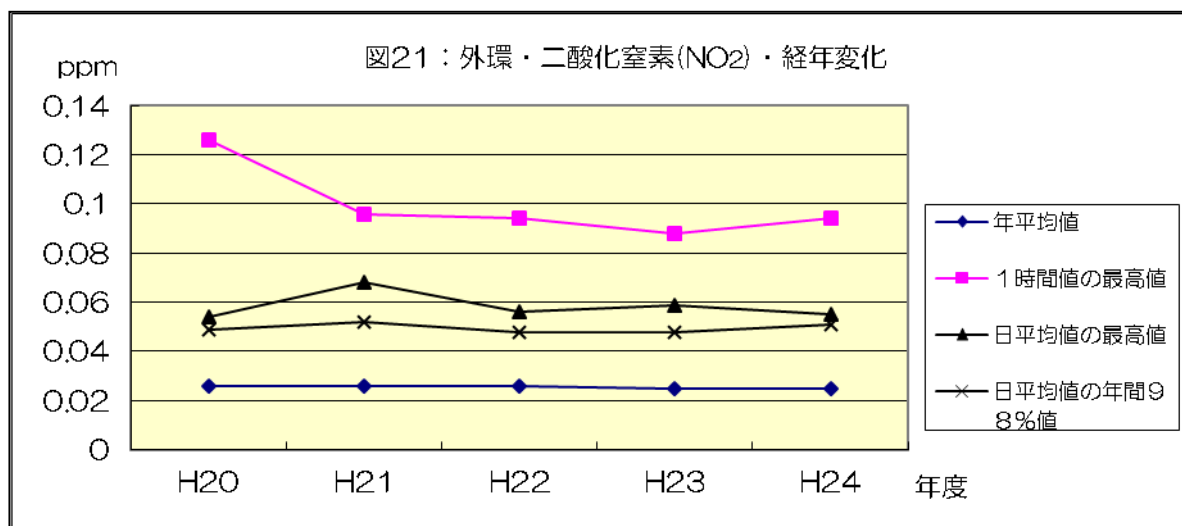
平成24年度の二酸化窒素の年間値（表21参照）については、年平均値が0.025ppm、1時間値の最高値が0.094ppm、日平均値の最高値が0.055ppm、日平均値の年間98%値が0.051ppmである。

これらを前年度と比べると、年平均値は増減なし、1時間値の最高値は0.006ppmの増加、日平均値の最高値は0.004ppmの減少、日平均値の年間98%値では0.003ppmの増加であった。

過去5ケ年における経年変化（図21参照）をみると、年平均値で0.025～0.026ppmとほぼ横ばい、1時間値の最高値で0.088～0.126ppm、日平均値の最高値で0.054～0.068m、日平均値の年間98%値で0.048～0.052ppmと、横ばい傾向にある。

年間値及び経年変化（表21）

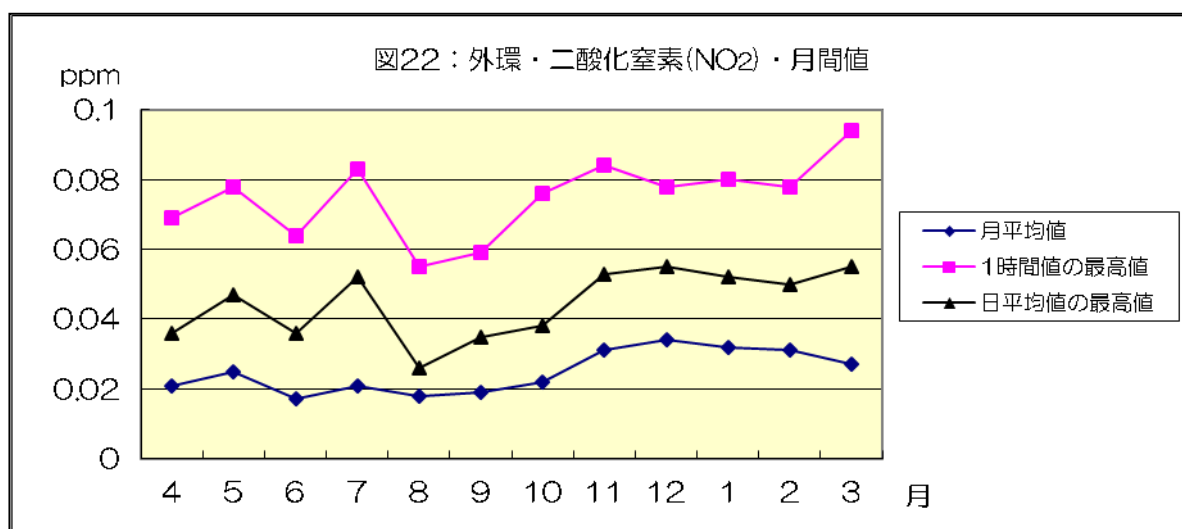
項 目	単位	22年度	23年度	24年度
有効測定日数	日	359	364	363
測定時間	時 間	8,595	8,636	8,609
年平均値	ppm	0.026	0.025	0.025
1時間値の最高値	ppm	0.094	0.088	0.094
日平均値の最高値	ppm	0.056	0.059	0.055
1時間値が0.2ppmを超えた時間数	時 間	0	0	0
1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数	時 間	0	0	0
日平均値が0.06ppmを超えた日数	日	2	0	0
日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数	日	38	41	41
日平均値の年間98%値	ppm	0.048	0.048	0.051
98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数	日	0	0	0



また、月間値（表 22 及び図 22 参照）をみると、月平均値では 0.017～0.034ppm、1 時間値の最高値では 0.055～0.094ppm、日平均値の最高値では 0.026～0.055ppm で推移している。二酸化窒素も大気汚染の特徴である夏期が低く、冬期に高くなる傾向になっている。

平成 24 年度 月間値 （表 22）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 （日）	30	30	30	31	31	30	30	30	31	31	28	31
測 定 時 間 （時間）	708	723	709	732	733	711	726	708	733	733	661	732
月 平 均 値 （ppm）	0.021	0.025	0.017	0.021	0.018	0.019	0.022	0.031	0.034	0.032	0.031	0.027
1 時間値の最高値 （ppm）	0.069	0.078	0.064	0.083	0.055	0.059	0.076	0.084	0.078	0.080	0.078	0.094
日平均値の最高値 （ppm）	0.036	0.047	0.036	0.052	0.026	0.035	0.038	0.053	0.055	0.052	0.050	0.055
1 時間値が 0.2 ppm を 超えた時間数（時間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 時間値が 0.1 ppm 以上 0.2 ppm 以下の時間数（時間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が 0.06 ppm を 超えた日数（日）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が 0.04 ppm 以上 0.06 ppm 以下の日数（日）	0	3	0	2	0	0	0	3	13	7	7	6



4 環境大気調査（フィルターバッチ方式）測定結果

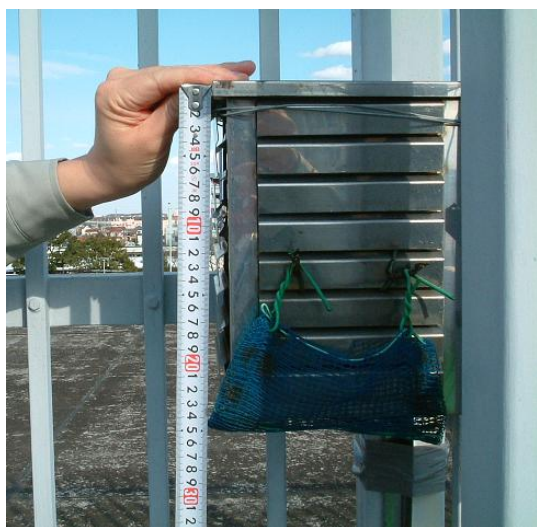
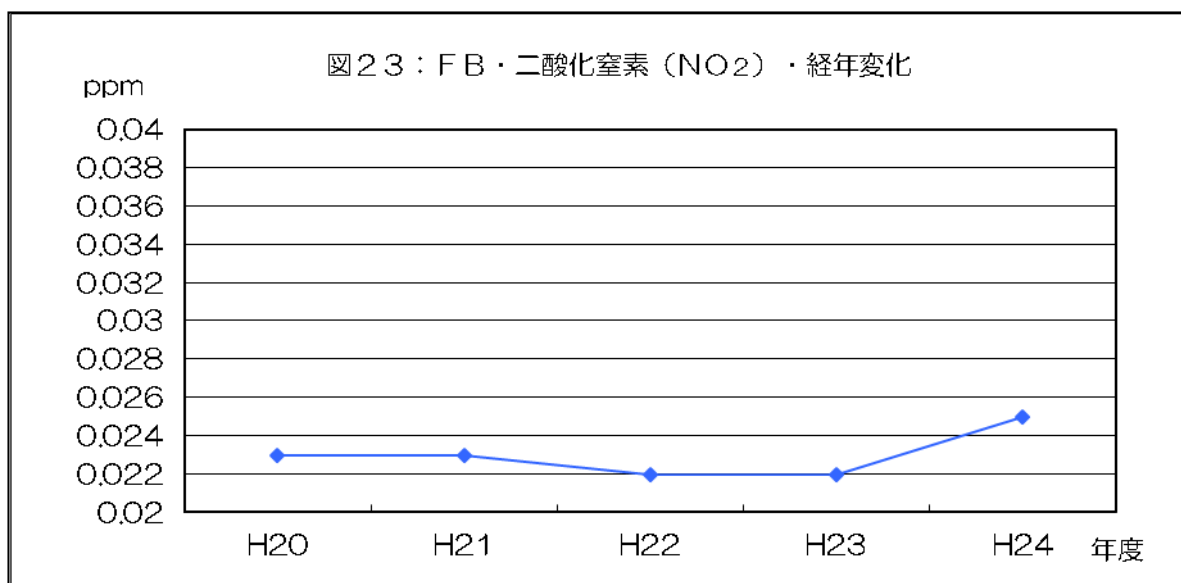
二酸化窒素〔NO₂〕の測定結果と評価

平成24年度の環境大気調査地点における二酸化窒素の年間値及び経年変化（表23及び図23参照）については、年間平均値0.025ppmであり、全体的には、付近に幹線道路や主要道路が通っている調査地点は高く、交通量の少ない道路の付近では低くなる傾向がみられる。

過去5ケ年における経年変化をみると、各調査地点の比較をしても大きな変化はみられなかった。

年間値（表23）

調査地点名	市立北公民館	高州3丁目 消防機具置場	年間平均値
測定値	0.022	0.029	0.025



フィルターバッチの収納箱



フィルターバッチに入っているフィルター

第 2 節 水 質 汚 濁

1 環境基準等

(1) 環境基準値

① 公共用水域の環境基準と類型指定

水質汚濁に係る環境基準は、人の健康の保護に関する環境基準（表A）、および生活環境の保全に関する環境基準（表B）があり、前者は公共用水域に一律に定められており、後者は、河川、湖沼、流域ごとに利水目的に応じた水域類型を設けて定められている。

本市では、江戸川はA類型、中川はC類型に指定されていたが、平成 18 年 3 月に大場川がC類型に指定された。第二大場川は、類型は未指定である。

人の健康の保護に関する環境基準（表A）

改正 平成 23 年 10 月 27 日環境省告示

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カ ド ミ ウ ム	0.003mg/ℓ以下	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006mg/ℓ以下
全 シ ア ン	検出されないこと	トリクロロエチレン	0.03mg/ℓ以下
鉛	0.01mg/ℓ以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下
六 価 ク ロ ム	0.05mg/ℓ以下	1, 3-ジクロロプロペン	0.002mg/ℓ以下
ヒ 素	0.01mg/ℓ以下	チ ウ ラ ム	0.006mg/ℓ以下
総 水 銀	0.0005mg/ℓ以下	シ マ ジ ン	0.003mg/ℓ以下
ア ル キ ル 水 銀	検出されないこと	チ オ ベ ン カ ル ブ	0.02mg/ℓ以下
P C B	検出されないこと	ベ ン ゼ ン	0.01mg/ℓ以下
ジ ク ロ ロ メ タ ン	0.02mg/ℓ以下	セ レ ン	0.01mg/ℓ以下
四 塩 化 炭 素	0.002mg/ℓ以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/ℓ以下
1, 2-ジクロロエタン	0.004mg/ℓ以下	ふ っ 素	0.8mg/ℓ以下
1, 1-ジクロロエチレン	0.1mg/ℓ以下	ほ う 素	1mg/ℓ以下
シス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04mg/ℓ以下	1, 4-ジ オ キ サ ン	0.05mg/ℓ以下
1, 1, 1-トリクロロエタン	1mg/ℓ以下		
対 象 水 域	全公共用水域		
達 成 期 限	直ちに達成し、維持するように努める。		

- 備考 1. 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
 2. 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

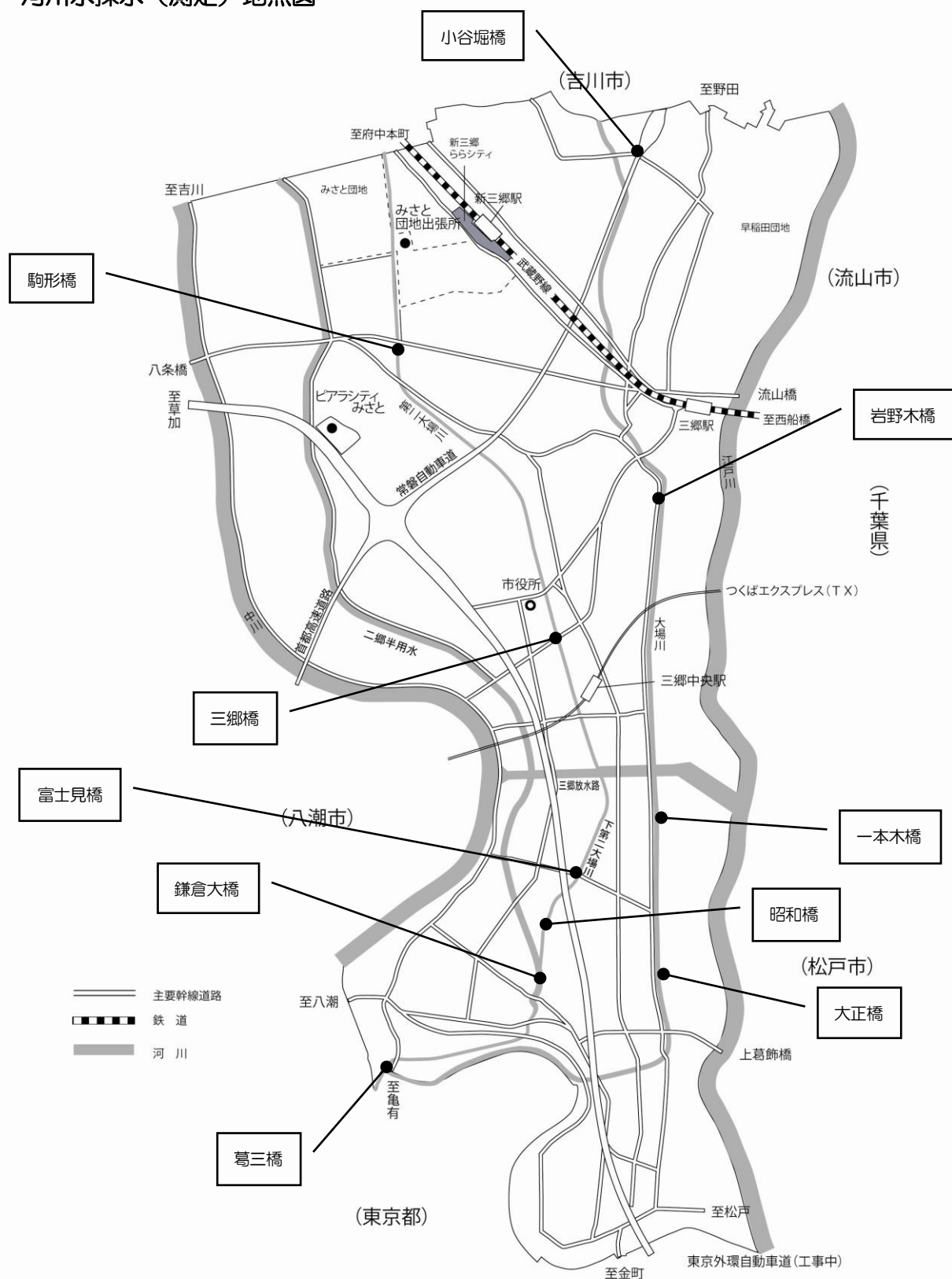
生活環境の保全に関する環境基準（河川）（表B）

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値				
		水素イオン 濃度（pH）	生物化学的酸素 要求量（BOD）	浮遊物質 量（SS）	溶存酸素量 （DO）	大腸菌群数
AA	水道1級 自然環境保全及び A以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	1mg/ℓ以下	25mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ以上	50MPN/ 100ℓ以下
A	水道2級・水産1級 水浴及びB以下の 欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	2mg/ℓ以下	25mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ以上	1,000MPN/ 100ℓ以下
B	水道3級 水産2級及びC以下の 欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	3mg/ℓ以下	25mg/ℓ以下	5mg/ℓ以上	5,000MPN/ 100ℓ以下
C	水産3級 工業用水1級及び D以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	5mg/ℓ以下	50mg/ℓ以下	5mg/ℓ以上	—
D	工業用水2級 農業用水及びE以下の 欄に掲げるもの	6.0 以上 8.5 以下	8mg/ℓ以下	100mg/ℓ以下	2mg/ℓ以上	—
E	工業用水3級 環境保全	6.0 以上 8.5 以下	10mg/ℓ以下	ごみ等の浮遊が 認められないこと	2mg/ℓ以上	—

- 注 1. 基準値は、日間平均値とする。
2. 農業利用水点については、水素イオン濃度（pH）6.0以上、7.5以下、溶存酸素量（DO）5mg/ℓ以上とする。
3. 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
4. 水道1級：ろ過等による簡単な浄水操作を行なうもの
水道2級：沈でろ過等による通常の浄水操作を行なうもの
水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行なうもの
5. 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級の水産生物用
水産3級：コイ、フナ等β-中腐水性水域の水産生物用
6. 工業用水1級：沈でん等による通常の浄化操作を行なうもの
工業用水2級：薬品注入等による高度の浄化操作を行なうもの
工業用水3級：特殊の浄化操作を行なうもの
7. 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度

- 備考 1. 環境基準によるBOD値評価
75%値とは、分析件数/年×0.75＝75%値である。従って、年間6回の調査分析を行なった場合は、1番低い値から高い値順にみて、5番目の分析結果値で、環境基準の適合又は不適合を判定評価する。
2. 測定方法
環境庁告示方法及びJIS（規格）K0102等により行なう。

(2) 河川水採水（測定）地点図



2 水質汚濁の概要

(1) 河川水の測定結果と評価

平成24年度における河川水の測定地点別（2地点増）の年間値をみると、定期項目（表25及び図2 5—1参照）では、pH〔水素イオン濃度〕が、7.3～7.6であり、あまり差はみられなかった。SS〔浮遊粒子状物質〕は14.1～40.9mg/ℓであり、前年度（21.3～42.9mg/ℓ）と比較すると減少した。BOD〔生物化学的酸素要求量〕（75%値）は3.9～4.9mg/ℓであった。DO〔溶存酸素量〕は4.1～8.7mg/ℓで、前年度（4.4～7.9mg/ℓ）に比べると数値はやや増加した。MBAS〔陰イオン界面活性剤〕は0.06～0.2mg/ℓで前年度（0.09～0.15mg/ℓ）とあまり差はみられなかった。

測定点について前年度と比較すると、SSは3箇所で増加し5箇所で減少した。BOD（75%値）は5箇所で増加し1箇所で減少した。DOについても5箇所で増加し3箇所で減少した。MBASは全箇所であまり変動が見られなかった。

平成24年度の不定期項目（表26参照）については、全項目・全測定地点で問題になるような数値にはなっていない。なお、不定期項目のうち、有害物質については、全ての測定地点であまり変動はなく、問題になる測定地点及び項目はない。

環境基準との対比については、大場川はC類型で（平成18年3月24日付）、第二大場川、下第二大場川は類型未指定である。仮に、共にC類型として評価すると、DOは2箇所で環境基準を未達成であるが、その他は達成されている。

※実績値(未達成÷40-1)

○ 年間値及び経年変化

定期項目〔単位：mg/ℓ、ただしpHを除く〕（表25）

河川名／項目／年度			21年度	22年度	23年度	24年度
大 場 川	小谷堀橋	pH	7.3	7.3	7.3	7.4
		SS	26.6	24.5	22.9	25.3
		BOD（平均値）	4.6	3.2	3.2	3.9
		BOD（75%）	5.4	4.1	3.4	4.2
		DO	7.28	6.46	6.85	7.02
		MBAS	0.04	0.11	0.10	0.11
		透視度	17.92	21.96	21.75	20.9
	岩野木橋	pH	7.4	7.3	7.4	7.4
		SS	18.9	19.3	21.3	22.9
		BOD（平均値）	4.8	3.4	3.5	3.7
		BOD（75%）	4.6	4.3	4.0	3.9
		DO	6.25	6.8	6.60	5.9
		MBAS	0.03	0.10	0.10	0.09
		透視度	20.08	24.68	23.76	23.8
	一本木橋	pH	7.4	7.4	7.5	7.4
		SS	19.6	21.6	21.6	20.5
		BOD（平均値）	5.1	3.2	3.5	4.2
		BOD（75%）	4.9	3.5	4.0	4.7
		DO	5.6	6.2	6.10	5.58
		MBAS	0.03	0.33	0.11	0.11
		透視度	22.75	24.9	25.2	27.4



大場川での河川水採取

大 場 川	大 正 橋	pH	7.4	7.3	7.4	7.3
		SS	19.9	23.1	23.7	15.9
		BOD（平均値）	4.7	3.1	4.1	4.1
		BOD（75％）	4.7	4.3	4.0	4.8
		DO	5.59	5.76	5.74	5.7
		MBAS	0.03	0.11	0.11	0.09
		CN	不検出	不検出	不検出	不検出
		透視度	24.98	24.43	26.88	30.58
	葛 三 橋	pH	7.3	7.3	7.5	7.3
		SS	24.4	25.1	28.0	14.1
		BOD（平均値）	4.7	3.3	3.4	4.0
		BOD（75％）	5.2	4.2	3.8	4.2
		DO	5.73	6.11	5.65	6.8
		MBAS	0.03	0.11	0.10	0.06
		透視度	26.28	27.48	26.90	33.8
	第二大場川・下第二大場川	駒 形 橋	pH	7.6	7.4	7.6
SS			34.4	27.0	24.0	31.0
BOD（平均値）			6.4	2.9	3.2	3.9
BOD（75％）			5.5	3.7	4.2	4.4
DO			7.47	7.61	7.90	8.7
MBAS			0.02	0.08	0.15	0.1
透視度			15.43	21.80	21.25	20.7
三 郷 橋		pH	7.4	7.5	7.6	7.5
		SS	24.2	19.8	26.2	25.7
		BOD（平均値）	5.3	3.1	3.9	3.8
		BOD（75％）	5.3	3.7	4.4	4.4
		DO	6.07	6.43	6.66	6.9
		MBAS	0.03	0.08	0.09	0.08
		透視度	24.72	23.93	20.85	22.78
鎌倉大橋		pH	7.3	7.3	7.4	7.3
		SS	29.8	40.2	42.9	26.5
		BOD（平均値）	5.4	4.1	4.0	4.1
		BOD（75％）	5.5	4.2	4.5	4.5
		DO	3.88	4.20	4.43	4.8
		MBAS	0.05	0.15	0.14	0.1
		CN	不検出	不検出	不検出	不検出
透視度		22.96	23.42	23.6	29.6	
昭和橋		pH				7.3
		SS				31.1
		BOD（平均値）				4.05
		BOD（75％）				4.9
		DO				4.1
		MBAS				0.1
	透視度				26.9	
富士見橋	pH				7.3	
	SS				40.9	
	BOD（平均値）				4.5	
	BOD（75％）				4.8	
	DO				6.9	
	MBAS				0.2	
	透視度				26.8	

図25-1-A：平成24年度地点別年間値
(pH)

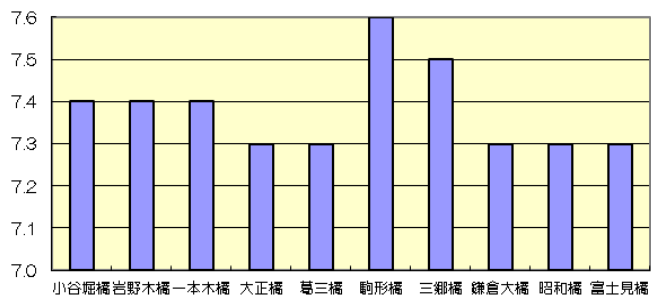


図25-1-B：平成24年度地点別年間値
(SS)

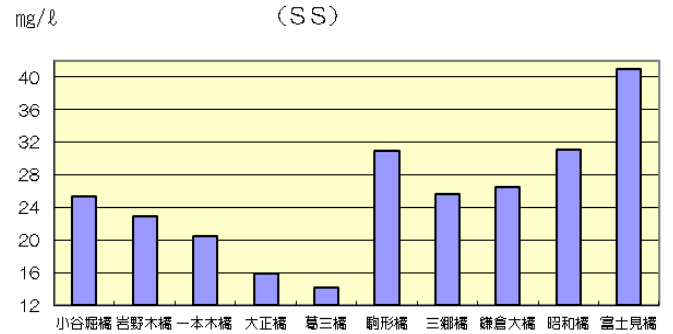


図25-1-C：平成24年度地点別年間値
(BOD・平均値)

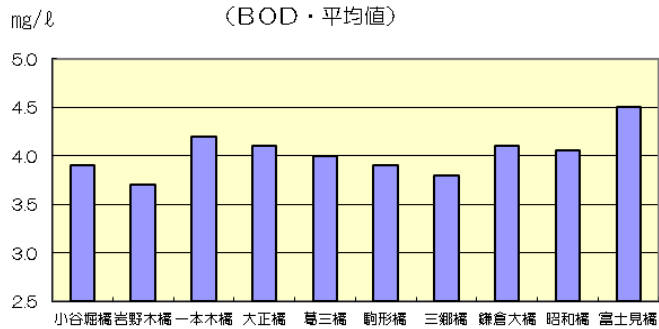


図25-1-D：平成24年度地点別年間値
(BOD・75%値)

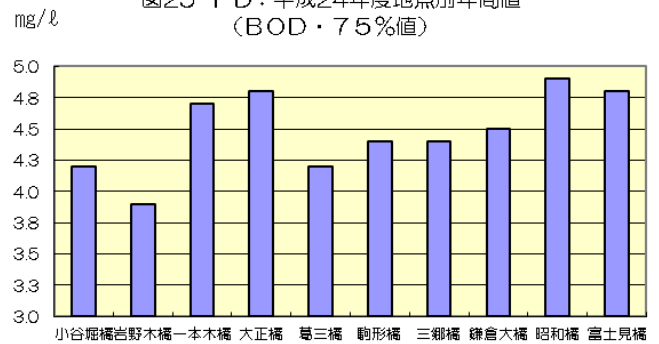


図25-1-E：平成24年度地点別年間値
(DO)

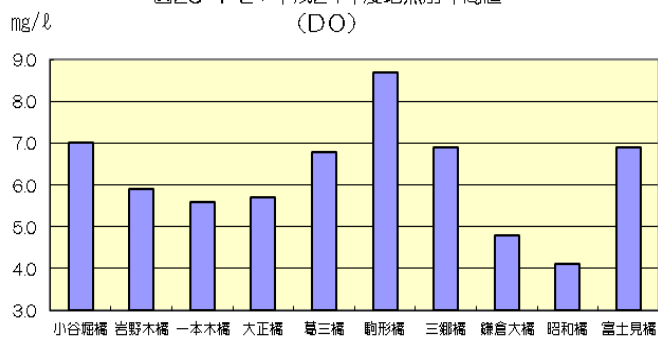
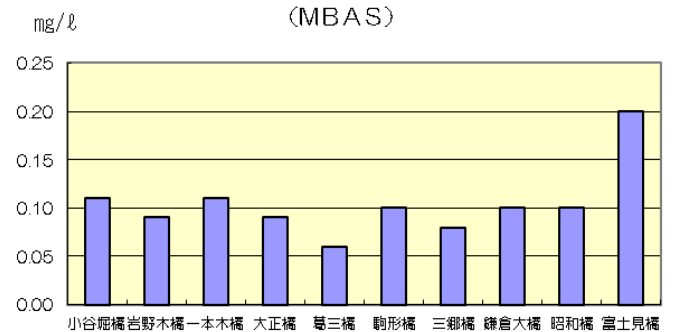
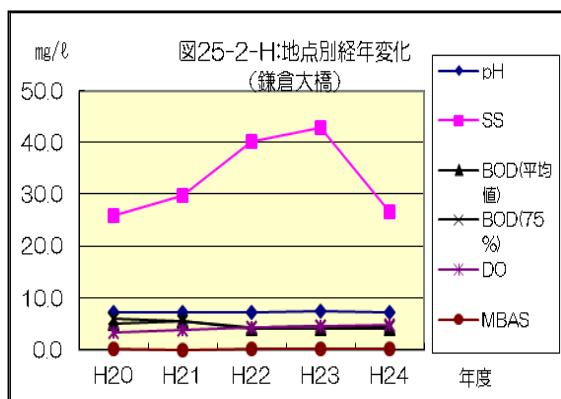
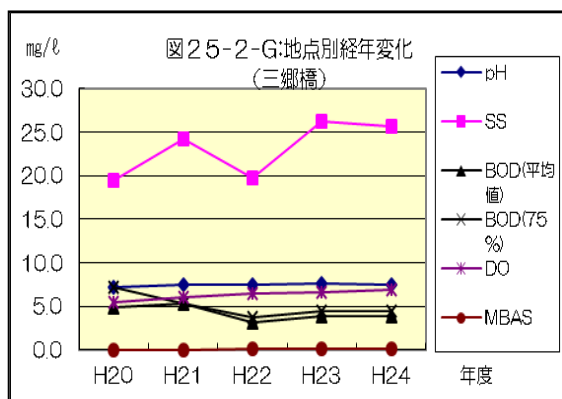
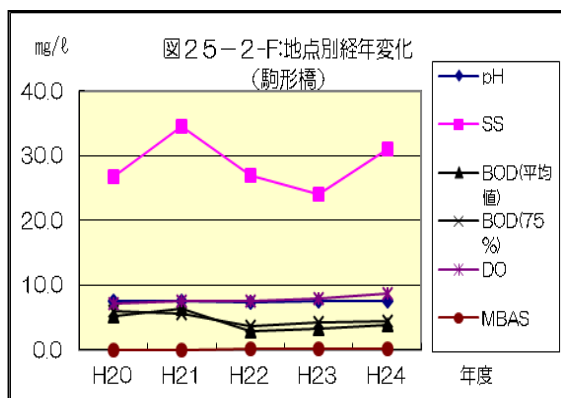
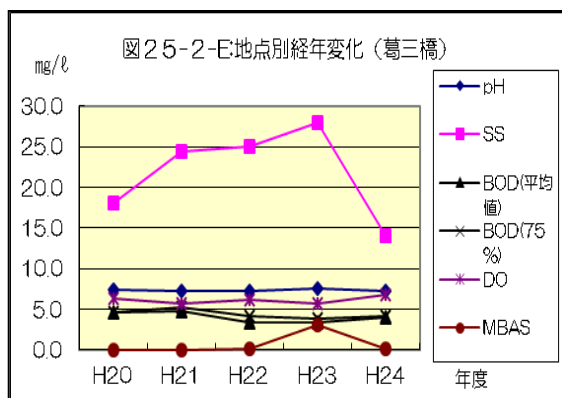
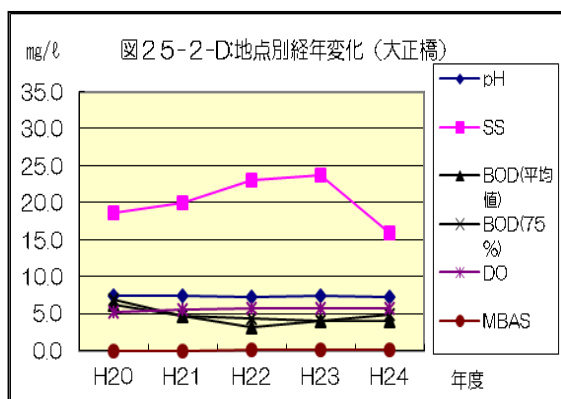
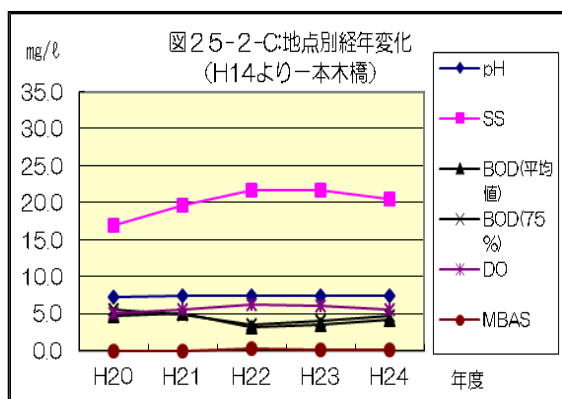
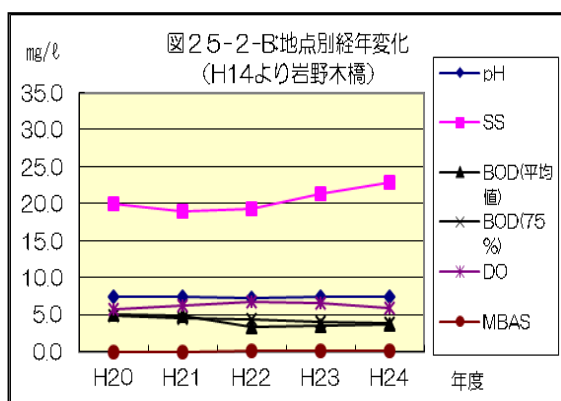
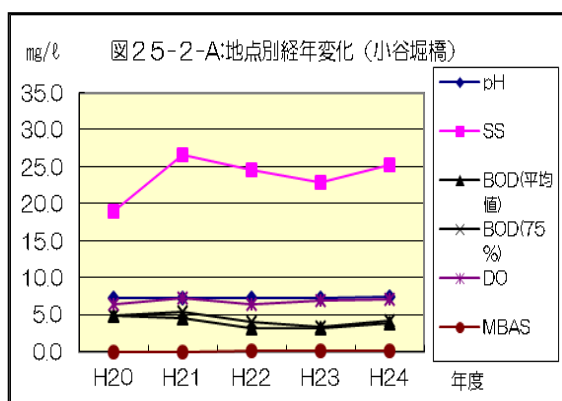


図25-1-F：平成24年度地点別年間値
(MBAS)





不定期項目〔単位：mg／リットル、大腸菌群数：MPN／100ml〕（表 26－A）・・・大場川系

項目／河川／年度	大正橋			小谷堀橋			一本木橋		
	22年度	23年度	24年度	22年度	23年度	24年度	22年度	23年度	24年度
大 腸 菌 群 数	127300	279630	173180	139800	235400	200690	333200	163900	198400
ノルマルヘキサン抽出物質	<2.5	<2.5	<2.5						
全窒素（T－N）	2.8	3.8	3.2						
全リン（T－P）	0.14	0.18	0.18						
カ ド ミ ウ ム	<0.001	<0.001	<0.0005						
有 機 リ ン	<0.1	不検出	不検出						
鉛（Pb）	<0.005	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	0.001
六 価 ク ロ ム	<0.02	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ひ 素（As）	<0.002	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	0.001
総 水 銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005						
ア ル キ ル 水 銀	不検出	不検出	不検出						
ポリ塩化ビフェニール	不検出	不検出	不検出						
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002						
四 塩 化 炭 素	<0.0002	<0.0002	<0.0002						
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004						
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002						
シス-1,2ジクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001						
1,1,1-トリクロロエタン	<0.001	<0.001	<0.001						
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006						
トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001						
テトラクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001						
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002						
チ ウ ラ ム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006			
シ マ ジ ン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003			
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002			
ベ ン ゼ ン	<0.001	<0.001	<0.001						
セ レ ン	<0.001	<0.001	<0.001						
銅（Cu）	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10
亜 鉛（Zn）	0.013	0.014	0.018	0.009	0.012	0.016	0.011	0.011	0.016
溶 解 性 鉄	<1.0	<1.0	<1.0						
溶 解 性 マ ン ガ ン	<1.0	<1.0	<1.0						
全 ク ロ ム	<0.10	<0.10	<0.10						
フ ッ 素	0.18	0.11	0.15						
ほ う 素	0.17	0.28	0.16						
アンモニア性窒素	1.1	1.6	2.0	1.5	1.4	1.1	1.0	1.6	1.4

不定期項目〔単位：mg／ℓ、大腸菌群数：MPN／100ml〕（表 26－B）・・・大場川系

項目／河川／年度	岩野木橋			葛三橋		
	22年度	23年度	24年度	22年度	23年度	24年度
大 腸 菌 群 数	148200	60300	111290	100400	211190	45760
ノルマルヘキサン抽出物質						
全窒素（T－N）						
全リン（T－P）						
カ ド ミ ウ ム						
鉛（Pb）	<0.001	0.001	0.004	<0.001	0.002	<0.001
六 価 ク ロ ム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ひ 素（As）	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
銅（Cu）	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10
亜 鉛（Zn）	0.011	0.010	0.018	0.012	0.016	0.013
アンモニア性窒素	1.2	1.4	1.1	1.1	1.6	1.3

不定期項目〔単位：mg/L、大腸菌群数：MPN/100ml〕（表26-D）…第二大場川系

項目／河川／年度	駒形橋			三郷橋			鎌倉大橋		
	22年度	23年度	24年度	22年度	23年度	24年度	22年度	23年度	24年度
大腸菌群数	96600	287980	465200	231800	326600	752300	128500	299340	177100
ノルマルヘキサン抽出物質							<2.5	<2.5	<2.5
全窒素（T-N）							5.6	7.3	3.1
全リン（T-P）							0.27	0.38	0.17
カドミウム							<0.001	<0.001	<0.0005
有機リン							不検出	不検出	不検出
鉛（Pb）	<0.001	0.001	0.002	<0.001	0.003	0.003	0.001	0.002	<0.001
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ヒ素（As）	<0.002	0.001	0.002	0.002	0.001	0.002	<0.001	0.001	0.001
総水銀							<0.0005	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀							不検出	不検出	不検出
ポリ塩化ビフェニール							不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン							<0.002	<0.002	<0.002
四塩化炭素							<0.0002	<0.0002	<0.0002
1, 2-ジクロロエタン							<0.0004	<0.0004	<0.0004
1, 1-ジクロロエチレン							<0.002	<0.002	<0.002
トリス-1, 2ジクロロエチレン							0.001	<0.001	<0.001
1, 1, 1-トリクロロエタン							<0.001	<0.001	<0.001
1, 1, 2-トリクロロエタン							<0.0006	<0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン							<0.001	<0.001	<0.001
テトラクロロエチレン							<0.001	<0.001	<0.001
1, 3-ジクロロプロペン							<0.0002	<0.0002	<0.0002
チウラム							<0.0006	<0.0006	<0.0006
シマジン							<0.0003	<0.0003	<0.0003
チオベンカルブ							<0.002	<0.002	<0.002
ベンゼン							<0.001	<0.001	<0.001
セレン							<0.001	<0.001	<0.001
銅（Cu）	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10
亜鉛（Zn）	0.013	0.009	0.020	0.016	0.023	0.038	0.025	0.022	0.026
溶解性鉄							<1.0	<1.0	<1.0
溶解性マンガン							<1.0	<1.0	<1.0
全クロム							<0.10	<0.10	<0.10
フッ素							0.19	0.16	0.12
ほう素							0.21	0.33	0.15
アンモニア性窒素	0.3	0.3	0.6	1.8	1.3	0.4	2.5	2.4	1.8

平成24年度 月間値 [単位：mg/ℓ、ただしpHを除く] (表27)

河川名/項目/年度			4月	5月	6月	7月	8月	9月
大場川	小谷堀橋	pH	7.4	7.2	7.0	7.2	7.4	7.5
		SS	32	37	20	28	43	32
		BOD	4.2	3.1	3.9	3.6	4.1	4.0
		DO	7.2	6.3	5.2	6.3	8.1	4.9
		MBAS	0.08	0.04	0.04	0.03	0.04	0.04
	岩野木橋	pH	7.5	7.2	7.0	7.2	7.5	7.6
		SS	20	21	30	27	33	27
		BOD	4.2	3.9	3.0	3.8	3.8	4.4
		DO	9.1	5.6	4.0	4.7	7.8	4.4
		MBAS	0.05	0.03	0.04	0.03	0.05	0.05
	一本木橋	pH	7.6	7.2	7.2	7.2	7.4	7.5
		SS	22	11	7.0	15	51	27
		BOD	4.8	4.0	4.9	4.5	3.8	4.4
		DO	9.1	5.0	3.8	3.7	6.4	3.9
		MBAS	0.08	0.05	0.03	0.05	0.06	0.03
	大正橋	pH	7.5	7.2	7.1	7.2	7.4	7.5
		SS	18	21	7.8	10	25	25
		BOD	4.8	4.6	3.9	4.8	3.9	3.5
		DO	8.5	4.7	4.5	3.5	5.7	5.4
		MBAS	0.08	0.04	0.02	0.03	0.04	0.04
	葛三橋	pH	7.4	7.1	7.0	7.2	7.4	7.5
		SS	17	12	19	6.0	16	18
		BOD	4.9	3.9	4.2	4.6	3.8	3.6
		DO	8.0	4.3	5.0	5.4	7.2	6.4
		MBAS	0.04	0.04	0.04	0.03	0.05	0.04
第二大場川・下第二大場川	駒形橋	pH	7.6	7.2	7.2	7.3	7.5	7.5
		SS	21	44	34	35	39	36
		BOD	4.7	3.2	4.7	3.7	3.4	4.2
		DO	10.0	5.5	4.5	5.0	7.3	4.1
		MBAS	0.07	0.04	0.04	0.05	0.04	0.08
	三郷橋	pH	7.7	7.4	7.3	7.5	7.5	7.8
		SS	34	21	26	20	30	40
		BOD	3.2	4.0	3.3	3.6	4.4	4.6
		DO	8.9	5.8	4.7	5.7	6.0	6.1
		MBAS	0.06	0.03	0.04	0.05	0.05	0.04
	鎌倉大橋	pH	7.4	7.1	7.0	7.2	7.3	7.5
		SS	41	31	20	16	25	27
		BOD	3.9	4.2	3.9	4.4	4.2	3.5
		DO	6.0	3.7	3.5	3.5	5.8	5.1
		MBAS	0.11	0.06	0.03	0.04	0.04	0.04
	昭和橋	pH	7.3	7.1	7.0	7.1	7.3	7.5
		SS	47	15	13	34	59	26
		BOD	4.9	4.9	4.0	4.9	4.1	4.3
		DO	3.9	3.0	2.8	2.7	5.1	3.6
		MBAS	0.15	0.08	0.05	0.06	0.05	0.04
	富士見橋	pH	7.2	7.1	7.0	7.1	7.2	7.5
		SS	69	40	23	45	110	17
		BOD	4.6	4.8	4.9	4.4	5.5	3.7
		DO	3.4	2.5	2.4	2.2	4.0	3.6
		MBAS	0.18	0.09	0.07	0.08	0.06	0.04

平成24年度 月間値 [単位：mg/ℓ、ただしpHを除く] (表27)

河川名／項目／年度			10月	11月	12月	1月	2月	3月
大場川	小谷堀橋	pH	7.5	7.2	7.5	7.4	7.5	7.6
		SS	15	23	10	12	23	29
		BOD	4.4	4.0	3.7	4.4	3.5	3.3
		DO	6.3	5.3	7.4	9.8	9.6	7.9
		MBAS	0.07	0.12	0.16	0.30	0.21	0.20
	岩野木橋	pH	7.5	7.3	7.7	7.4	7.6	7.6
		SS	21	17	13	17	20	29
		BOD	3.2	3.8	3.9	3.7	3.7	3.4
		DO	5.5	4.9	5.9	7.2	9.6	10.3
		MBAS	0.05	0.15	0.14	0.24	0.22	0.13
	一本木橋	pH	7.4	7.4	7.4	7.4	7.5	7.6
		SS	17	17	9	16	24	30
		BOD	4.0	4.1	4.2	4.7	4.0	3.8
		DO	3.9	4.6	4.5	6.6	7.2	8.3
		MBAS	0.05	0.15	0.12	0.26	0.28	0.19
	大正橋	pH	7.4	7.3	7.4	7.4	7.5	7.6
		SS	14	12	7	10	18	24
		BOD	4.3	4.4	3.4	4.8	3.6	3.6
		DO	4.2	3.9	6.1	5.7	7.0	8.7
		MBAS	0.05	0.04	0.10	0.33	0.29	0.11
	葛三橋	pH	7.3	7.3	7.4	7.4	7.5	7.5
		SS	16	12	9	12	14	19
		BOD	3.9	4.1	3.6	3.9	3.7	3.8
		DO	5.7	6.0	7.0	8.2	8.8	9.1
		MBAS	0.04	0.06	0.06	0.13	0.15	0.09
第二大場川・下第二大場川	駒形橋	pH	7.6	8.3	7.7	7.7	7.8	8.1
		SS	40	46	18	8	21	30
		BOD	4.4	3.8	4.1	2.9	3.8	4.3
		DO	7.7	9.0	10.2	12.5	12.6	16.5
		MBAS	0.06	0.12	0.10	0.14	0.15	0.18
	三郷橋	pH	7.8	8.3	7.6	7.4	7.3	7.4
		SS	31	39	24	13	18	13
		BOD	4.3	3.5	4.4	2.4	3.8	3.5
		DO	7.4	8.2	9.4	7.2	6.7	6.3
		MBAS	0.07	0.11	0.13	0.29	0.17	0.16
	鎌倉大橋	pH	7.4	7.4	7.4	7.4	7.5	7.5
		SS	14	10	8	11	40	76
		BOD	4.2	4.5	3.8	4.6	4.3	4.6
		DO	3.8	4.4	5.2	5.7	6.4	7.8
		MBAS	0.05	0.09	0.13	0.32	0.18	0.21
	昭和橋	pH	7.4	7.3	7.4	7.4	7.5	7.5
		SS	31	20	12	14	37	65
		BOD	4.9	4.7	4.1	4.5	3.6	4.4
		DO	3.7	2.7	4.6	5.4	5.9	5.4
		MBAS	0.07	0.14	0.12	0.31	0.18	0.18
	富士見橋	pH	7.4	7.2	7.4	7.4	7.3	7.4
		SS	50	27	16	50	20	24
		BOD	4.2	4.6	4.0	4.5	4.5	4.0
		DO	3.9	2.4	4.5	5.1	6.5	5.7
		MBAS	0.08	0.20	0.25	0.40	0.25	0.14

(2) 河川底質の測定結果と評価

平成24年度における河川底質の調査をした結果は以下のとおりでした。
特に、問題となる数値は見られませんでした。

単位、含水率、強熱減量は%、以外は、mg/kg

調査地点 項目	仁蔵橋	大場川橋	茂沢橋	仁蔵橋	大場川橋	茂沢橋	仁蔵橋	大場川橋	茂沢橋
	24年度	24年度	24年度	23年度	23年度	23年度	22年度	22年度	22年度
T-Hg	0.18	0.05	0.16	0.19	0.05	0.17	0.05 未満	0.05 未満	0.20
A-Hg	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
Cd	1.6	0.4	1.4	0.9	0.4	1.1	0.3 未満	0.3 未満	0.5
Pb	83	14	79	37	24	45	7.8	11	36
Cu	30	9.8	27	24	8.9	26	6.6	13	26
Cr ⁶⁺	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満
As	5.5	2.4	3.5	2.9	1.8	2.5	1.1	1.2	1.9
CN	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満
PCB	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満
O-P (有機リン)	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満
T-cr	92	65	84	73	65	84	200	92	120
含水率	51.6	27.9	45.22	65.1	31.6	66.2	26.1	24.0	53.9
強熱減量	11.4	1.7	8.6	12.7	3.7	12.2	2.3	1.7	9.4
油分	280	30	350	460	240	910	360	750	2000



市排水路から油や生物膜が第二大場川に流入しないよう吸着マットで流出防止

第 3 節 騒 音 ・ 振 動

1 環境基準等

(1) 環境基準値

○ 一般地域の環境基準

地域の区分		時間の区分 昼 間 (6 : 00~22 : 00)	夜 間 (22 : 00~6 : 00)
A A 地域	療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域	50dB以下	40dB以下
A 地域	第 1 種低層住居専用地域 第 2 種低層住居専用地域 第 1 種中高層住居専用地域 第 2 種中高層住居専用地域	55 dB以下	45 dB以下
B 地域	第 1 種住居地域 第 2 種住居地域 準住居地域 用途地域の定めのない地域		
C 地域	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域	60 dB以下	50 dB以下

○ 道路に面する地域の環境基準

地 域 の 区 分	昼 間	夜 間
A地域のうち 2 車線以上の車線を有する地域	60 dB以下	55 dB以下
B地域のうち 2 車線以上の車線を有する地域	65 dB以下	60 dB以下
C地域のうち車線を有する地域		

○ 幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準

区 分	昼 間	夜 間
屋 外	70 dB以下	65 dB以下
窓を閉めた室内	45 dB以下	40 dB以下

＊ 「幹線交通を担う道路」とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び 4 車線以上の市道等をいう。

＊ 「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、次の車線数の区分に応じ道路端からの距離によりその範囲を特定するものとする。

- | | |
|----------------------------|--------|
| (1) 2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 | 15メートル |
| (2) 2車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 | 20メートル |

＊ 環境基準の評価について

平成10年9月30日付環境庁告示第64号「騒音に係る環境基準について」により、環境基準の評価方法が、点的評価から面的評価に変わった。

(2) 自動車騒音の要請限度

地域の区分		時間の区分 昼 間 (6:00~22:00)	夜 間 (22:00~6:00)
1	a区域及びb区域のうち1車線を有する道路に面する区域	65 dB	55 dB
2	a区域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する区域	70 dB	65 dB
3	b区域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する区域及びc区域のうち車線を有する道路に面する区域	75 dB	70 dB

＊ 幹線交通を担う道路に近接する区域に係る限度は、表の規程にかかわらず昼間においては75dB、夜間においては70dBとする。

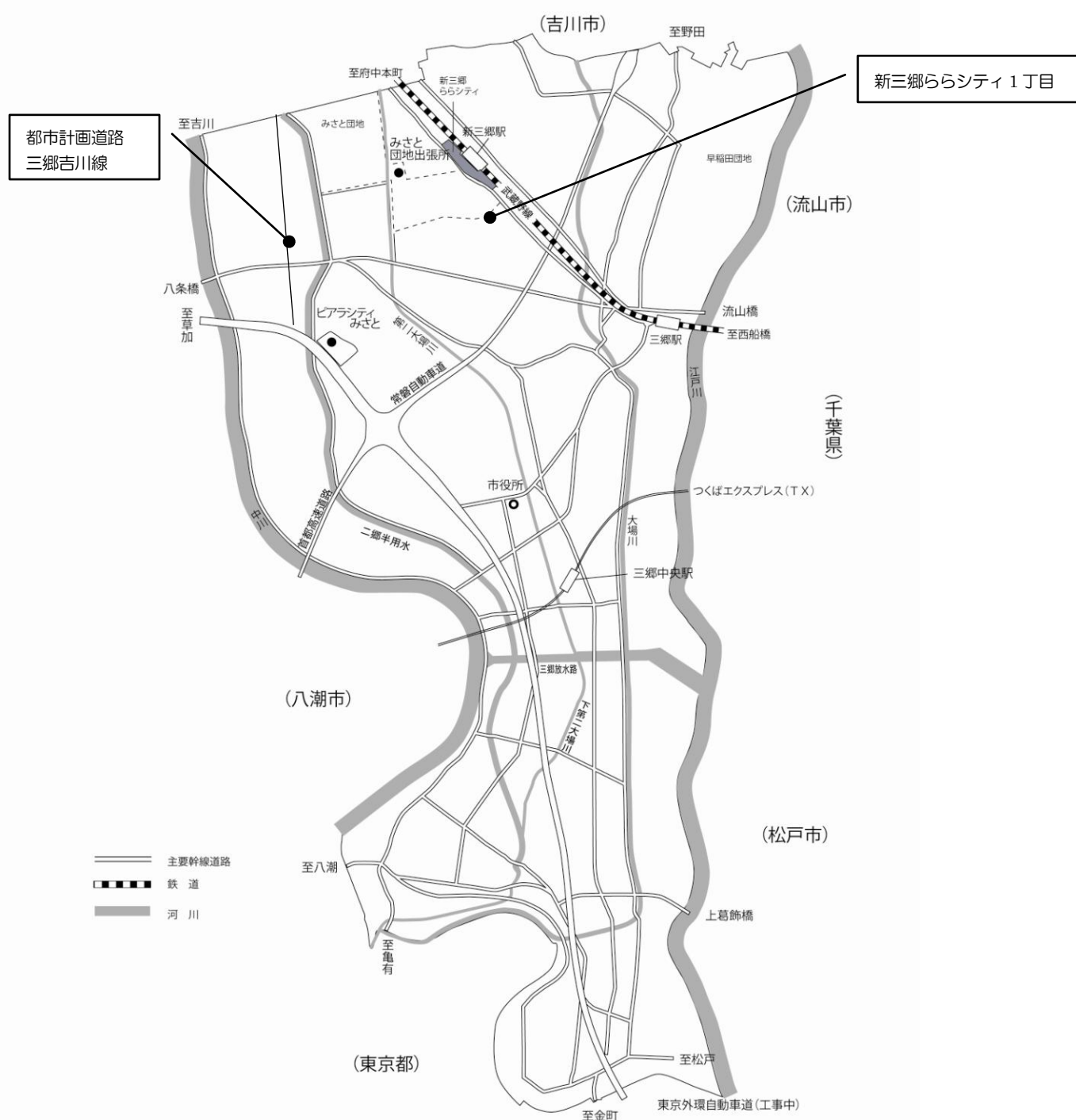
- ＊ 備考
- a区域：専ら住居の用に供される区域
 - b区域：主として住居の用に供される区域
 - c区域：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域

(3) 道路交通振動の要請限度

地域の区分		時間の区分 昼 間 (8:00~19:00)	夜 間 (19:00~8:00)
1種	第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 用途地域の定めのない地域	65 dB	60 dB
2種	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域	70 dB	65 dB

(4) 測定調査地点等

測定地区名	住 所	発生源の種類	測定項目
都市計画道路三郷吉川線	三郷市彦成2-169-1 先	自動車	騒音・振動
新三郷ららシティ旧地先	新三郷ららシティ 1-388-38 先	鉄 道	騒音・振動



2 交通騒音・振動調査

(1) 鉄道騒音・振動（ＪＲ武蔵野線の測定結果と評価）

ＪＲ武蔵野線にかかわる騒音・振動については、毎年１回定点測定調査を行なっている（表 30）。

平成 24 年度の騒音（等価騒音レベル：Leq）については、59dB であった。また振動については、54dB であった。

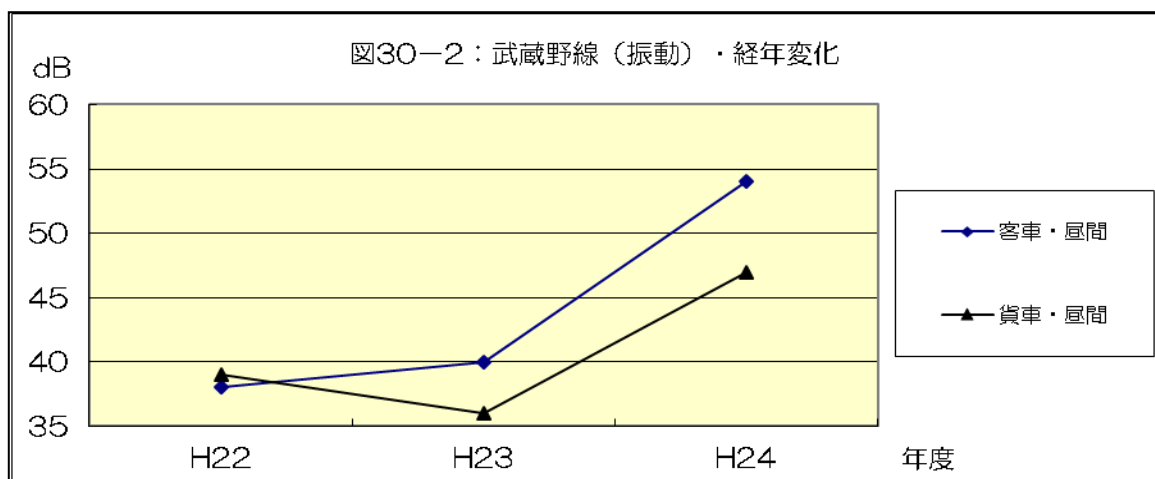
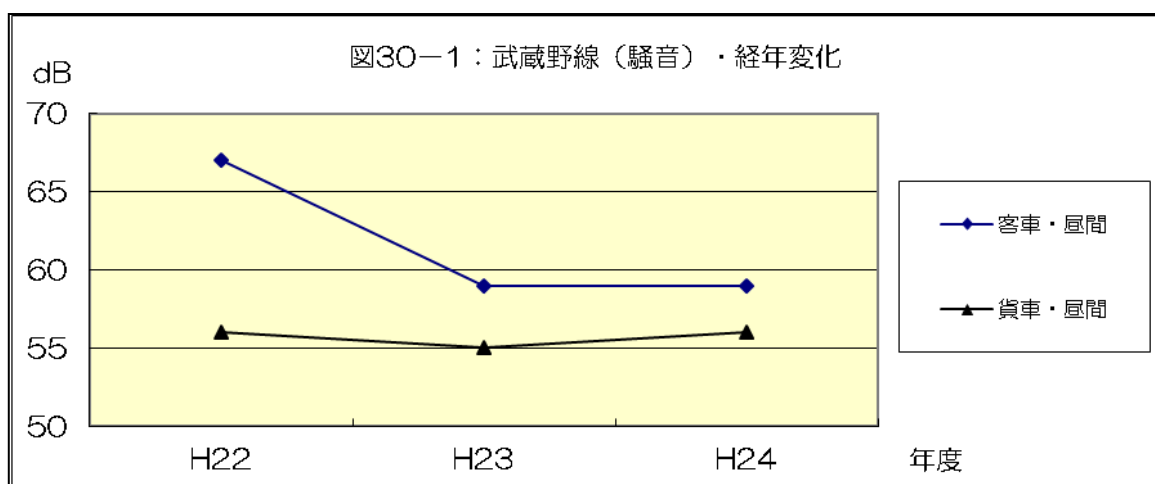
過去 3 ケ年の経年変化では、騒音はほぼ横ばい、振動は増加傾向である。（表 30、図 30-1、2）

鉄道騒音、振動は、車両構造、車両数、速度及び軌道の状態等により異なるため、今後も監視する必要がある。

武蔵野線騒音・振動年間値及び経年変化（表 30）

項目／種別／年度		22年度	23年度	24年度
騒 音 (dB)	客 車	67	59	59
	貨 物	63	55	56
振 動 (dB)	客 車	38	40	54
	貨 物	39	36	47

測定場所：新三郷ららシティ 1-388-38 先、測定地点：軌道敷から 12.5m



(2) **自動車騒音・振動**（彦成地区の測定結果と評価）

平成24年度は都市計画道路三郷・吉川線の彦成2丁目169番地1先で24時間測定調査を行なった。その測定結果は表31のとおりである。

騒音（等価騒音レベル：Leq）については、昼間が64dB、夜間が59dBであった。振動については、昼間が43dB、夜間が38dBであった。

要請限度の評価をみると、いずれも要請限度を下回っている。

過去3ヶ年の経年変化については、騒音・振動ともほぼ横ばいである。（表31及び図31-1、2参照）

自動車騒音・振動は交通量、通過速度及び路面状態等で異なるため、今後も監視する必要がある。

都市計画道路三郷・吉川線の24時間測定年間値及び経年変化〔単位：dB〕（表31）

項目／種別／年度		22年度	23年度	24年度
騒音	昼間（6：00～22：00）	67	67	64
	夜間（22：00～6：00）	64	64	59
振動	昼間（8：00～19：00）	42	42	43
	夜間（19：00～8：00）	38	38	38

